

第3章

分野別まちづくりの目標と方針

1. 豊かな都心生活を実現する住環境の創出
2. オープンスペースがつなぐ良質な空間の創出
3. 都心の風格と景観、界隈の魅力を創出・継承するまちづくり
4. 道路・交通体系と快適な移動環境の整備
5. 多様性を活かすユニバーサルなまちづくり
6. 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり
7. 環境と調和したスマートなまちづくり

▶ 従来の分野別の取組の進化と分野の枠を超えた創造的なまちづくりの展開

第2章に掲げる理念・将来像を実現するため、従来の分野別の取組みを進化させ、分野を超えた連携を強めながら、まちづくりを展開していきます。

これまでの分野と取組みの進化（改定）の視点	これからのまちづくりの分野イメージ
住宅・住環境整備： 次世代の魅力ある「都心生活」	分野1 豊かな都心生活を実現する住環境の創出
緑と水辺の整備： 居心地のよい空間の多様性	分野2 オープンスペースがつなぐ良質な空間の創出
景観づくり： 都心の風格と まちの文脈がつなぐ境界	分野3 都心の風格と景観、境界の魅力を創出・継承するまちづくり
道路・交通体系整備： 交通結節機能と移動ネットワーク	分野4 道路・交通体系と快適な移動環境の整備
福祉のまちづくり： 障壁のない多様な活動と交流環境	分野5 多様性を活かすユニバーサルなまちづくり
防災まちづくり： 災害対応力 （防災力・対応力・継続性）	分野6 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり
環境と調和したまちづくり： ひと・モノ・情報をつなぐ 次世代のスマートな都市基盤	分野7 環境と調和したスマートなまちづくり

都心・千代田
ならではの
魅力の進化



分野を超えた連携



世界都心を支える
高度な社会基盤の
進化

▶ 分野を超えた連携によるまちづくりの目標イメージ

居心地のよい場所、豊かな生活・交流・活動のスタイルと仲間を見つけられる

- ◇千代田のまちに住むひと、働くひと、様々な目的で訪れ滞在するひと、コミュニティがつながる
- ◇価値観やスキルなど、都心に集まるひとの多様性を背景に、知と行動力、まちの魅力・価値がつながる

▶▶▶ 【分野1】【分野2】



<つながりを生み、育てる場所・空間・都市機能の例>

- 緑や水辺、都心の多様なオープンスペースで生まれる「居心地のよい場所」、住まいと職場の間にある「サードプレイス」（朝・ランチタイム・就業後、休日等）
- 多様なひとが気軽に利用できる「シェアする空間」
- シェアハウス等の居住の多様性を広げる住宅

人生 100 年時代に先駆けて、多様性を受入れ、やさしさにあふれたユニバーサルなまちで自分らしく活動的に暮らせる

- ◇子ども、若者、ファミリー、熟年・高齢者など、どのライフステージからでも、まち・コミュニティとつながる
- ◇外国人来訪者を含め、多くのひとが移動しやすい環境がつながる
- ◇心地よい環境の中で人々のライフステージがつながる

▶▶▶ 【分野1】【分野4】【分野5】



<つながりを生み、育てる場所・空間・都市機能の例>

- ライフステージ、ライフスタイルに応じた多様な「住まい」
- 多くのひとが行き交う「交通結節点」「公共空間」
- 子どもや高齢者などが安心して過ごせる「居場所」

拠点と多彩な界隈が魅力を高めあい、未来へと価値と文化を創造・継承している

- ◇界隈性やものがたりを感じる空間や文化、暮らし、ひとの魅力がつながり、まちの価値にもつながる
- ◇界隈の味わいや奥行きをひとの目線で楽しめる場所と複合的な拠点の高質な空間がつながる
- ◇ひとつひとつの建物の再生と活用がまちを回遊する楽しみの広がりにつながる

▶▶▶ 【分野2】【分野3】



<つながりを生み、育てる場所・空間・都市機能の例>

- 開発を通じて生まれる「多彩なオープンスペース」
- まちの文化や風情が息づく「個性ある界隈・路地空間」
- リノベーション等で再生される「個別の建物」「エリア」

江戸城の遺構を活かし、都心の快適な環境と首都東京の風格・品格が感じられる

- ◇江戸からのまちの歴史と遺産が顕在化し、活用されて、未来の都心の価値につながる
- ◇歴史的遺構や都心の風格・品格を活かした眺望・景観が高質で居心地よい都市デザインにつながる

▶▶▶ 【分野2】【分野3】



＜つながりを生み、育てる場所・空間・都市機能の例＞

- 江戸城の遺構（濠・見附跡等）や重厚な歴史的建造物、近代の土木遺構などがつくる「象徴的空間」
- 地形の高低差を巧みに活かした外濠、内濠などの「風景を楽しむ場所」
- 開発のなかで各所に生まれる「眺望空間」

ICTが支えるスマートで強靱な社会基盤で、都心のひとと生活、活動が最適な状態に保たれている

- ◇脱炭素社会に向けた環境・エネルギー対策と災害時の適切な対応や自立性・機能継続性の確保の対策につながる
- ◇都心に滞在し、移動しているひとの行動と都市の様々なサービスがICTで最適につながる

▶▶▶ 【分野4】【分野6】【分野7】



＜つながりを生み、育てる場所・空間・都市機能の例＞

- 大規模な開発が連坦し、多くのひとが就業・滞在する「拠点エリア」
- 多くのひとが行き交う「交通結節点」「公共空間」
- 面的な開発による高度な「都市基盤施設」
- シェアリングエコノミーなど都心生活を支え、ひと、まちをつなぐ「社会システム」

地方や世界から選ばれる都心のグローバルな価値を生み、一歩先の未来を発信しつづけている

- ◇技術革新を活かした新しいチャレンジがフロントランナーとしての次世代の都心の価値向上につながる
- ◇世界水準のビジネス交流や来訪者の滞在が都心のさらなる複合的な魅力の創造につながる
- ◇地方の固有の文化・産物と都心の多様なポテンシャルが融合し、新しい交流と文化の創造につながる

▶▶▶ 【第5章 都市マネジメントの方針】



＜つながりを生み、育てる場所・空間・都市機能の例＞

- 時代を先取りした技術の実証実験やまちへの実装において「チャレンジし、発信する空間」
- 国際的な競争力が高まる「ビジネス交流空間」
- 都心のポテンシャルを活かす多様な「公共的空間」

● 分野 1 ●

豊かな都心生活を実現する住環境の創出

未来へのまなざし

次世代の魅力ある「都心生活」

定住人口や住宅など、都心居住の量的な回復基調のなかで、
職場への近接性や交通などの利便性だけでなく、
都心ならではの質の高い居住のスタイル、住み続けられる環境と、
その魅力・価値を一層高め、持続させていくための環境づくりを展開していきます。



日常生活や子育てのしやすさ
都心の豊かな緑と水辺に彩られた居住環境
人生 100 年時代のライフサイクルに応じて住み続けられる環境
世界水準の高質な都心居住の環境

また、居住の側面だけでなく、
国家中枢機能や国際ビジネス交流、文化・芸術、教育、学術・研究などの
高度な機能集積のなかで、多様なひとと“知”“創造的な力”が都心に集まり、
さまざまなスタイルで働き、交流し、活動する都心生活の魅力を高めていきます。



自分らしいスタイルで、
都心の生活時間を豊かに過ごせる多彩な“居場所”
多様な人が集い、出会い、価値観が交わり、
創造的なビジネスや活動、文化が生まれる場所・機会

こうした多面的な“都心生活”の魅力や面白さが生まれ、
まち、人のつながりが深まっていくなかで、
新たにビジネスを始めるひと、
江戸からのまちの文脈やつながりを感じながら、文化や新しい価値を生み出し、発信するひと、
そうした熟成された魅力・価値に惹かれて訪れるひと、滞在するひと、
住居を構え住み続ける人が増えていき、
従来から地域を支えている町会などのコミュニティの力に加えて、
新しい時代の創造的な力が活かされていく持続的なまちを目指します。

▶ 千代田区における住宅・住環境整備の概況

● これまでのまちづくりで目指してきたこと ●

■ 多様な人が住む、心ふれあうまちに

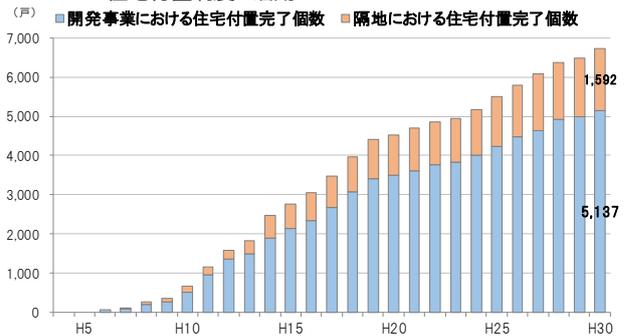
- 子ども、高齢者、障害者や単身世帯・ファミリー世帯など多様な人々からなるバランスのとれた地域社会を形成する
- それぞれのライフスタイルや家族構成にあった良質な住宅を増やすとともに、環境に配慮した住宅を確保していく
- うるおい、快適性、利便性、安全性、環境などに一層配慮しつつ、都心生活をもっと楽しむよう、文化や人とのふれあいの場、心を豊かにする場を充実させていく

■ まちづくりの主な取組みと成果

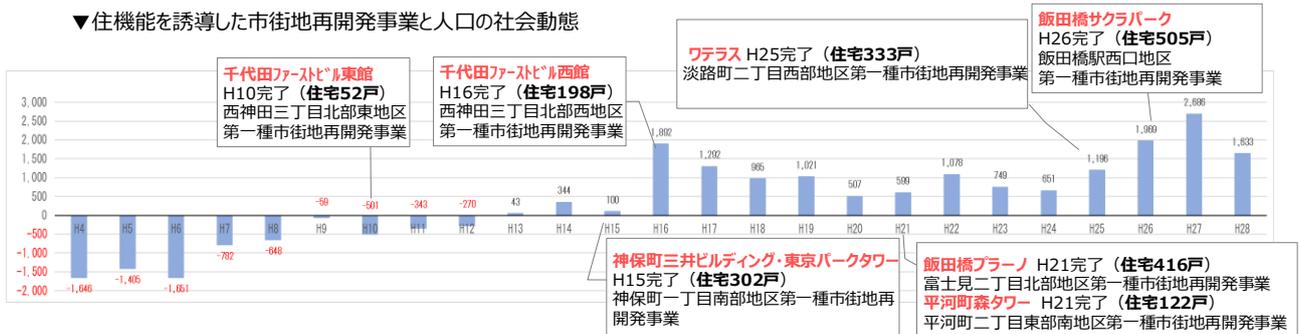
1 住機能を誘導する施策の展開

- ◇ファミリー世帯向け住宅を中心に住機能を立体的に誘導するため、市街地再開発事業や共同化を推進するとともに、住宅付置・開発協力金制度の運用により住宅の供給を増加させました。
- ◇地区計画のきめ細かい決定・運用により、居住環境の維持や住宅床の増加を図りました。

▼住宅付置制度の活用



▼住機能を誘導した市街地再開発事業と人口の社会動態



出典：千代田都市づくり白書(Ⅱ)データ・資料編

2 住宅の量の確保から「住環境の整備」「多様な住まい方の推進」へ

- ◇住宅基本計画を改定し、住宅の量の確保から住環境の整備、多様な住まい方の推進を目指すよう住宅政策の方向性を転換し、「住宅付置・開発協力金制度」を見直し「住環境整備推進制度」へ移行しました。

3 高齢者や障害者のための住宅の増加

- ◇高齢者向け住宅を供給し、高齢者人口に対する高齢者向け住宅の割合が高まっています。
- ◇障害者のためのグループホームの整備を進めるとともに、区営住宅の募集では一定割合を障害者のための住戸に位置付けて供給しています。

▶ まちづくりの視点・論点（課題）

次世代の魅力ある「都心生活」のために

◇人口増加、特にファミリー世帯の増加、高齢化に対応した高質な居住環境の充実にむけて

地区計画、中高層階住居専用地区や開発諸制度等の都市計画における住機能誘導のあり方
 集合住宅の居住世帯割合が約9割を占める千代田区において、機能更新期を迎える高経年マンションの増加と居住者の高齢化、いわゆる「二つの老い」への対応
 ファミリー世帯の居住増加に伴う教育、子育て支援関連施設のニーズの高まりへの都市づくり面からの対応（開発に伴う機能誘導など）

◇都心の資産、文化、ポテンシャルを活かした創造的な都心生活の場の創出とコミュニティの醸成にむけて

神田地域等、商業・業務地における集合住宅の増加に伴うまちの賑わい機能の低下
 シェアハウス・シェアオフィス等シェア空間の増加など、職住以外の都市生活の多様化への対応

(参考) 関連キーワード	
人口回復と高齢化に伴う新たな課題	<input type="checkbox"/> 人口、子育て世帯、高齢者・障害者の増加に伴う生活支援機能 <input type="checkbox"/> 高齢者層の住まいのあり方
住宅・住環境の課題	<input type="checkbox"/> 住機能を誘導する現行都市計画、その他の制度のあり方 <input type="checkbox"/> 商業地域における集合住宅供給の急増が地域に及ぼす影響への対応 <input type="checkbox"/> 住宅の低炭素化・省エネ化・スマート化・エネルギーの自立分散化 <input type="checkbox"/> マンションの管理適正化、老朽マンションの耐震化（+実態把握）
都心生活の多様性	<input type="checkbox"/> 多様な住まい方・滞在のスタイル <input type="checkbox"/> 既存ストックのリノベーション <input type="checkbox"/> シェアエコノミー <input type="checkbox"/> 利便性を最優先に求める居住などさらに多様化する住まい方 <input type="checkbox"/> 新たなビジネスのプラットフォーム（老朽ビル等の再生） <input type="checkbox"/> ワークプレイス（シェアオフィスやコワーキングスペースなど） <input type="checkbox"/> 生産性が高まるオフィス環境（バイオフィリックデザイン）
新しいスタイルのコミュニティ	<input type="checkbox"/> 職住以外の場における居心地の良い公共空間、交流空間（サードプレイス） <input type="checkbox"/> プレイスメイキング <input type="checkbox"/> ひととまちが様々なきっかけ・スタイルで関わりあう都心 <input type="checkbox"/> 新しい力・多様な価値が生まれ、育っていく都心

▶ まちづくりの目標

目 標

都心生活の多面的な魅力の向上、多様なスタイルでつながるまちとひとが持続的・創造的なコミュニティを育てていく

- ① より質の高い都心の居住スタイルと環境の創造
- ② 多様な人々がライフスタイルに応じて住み続けられる居住機能
- ③ まち、ひとのつながりが深まる持続的・創造的なコミュニティ形成

▶ まちづくりの方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

方針 1 都心生活の新しい魅力を発見しながら、住まい方の多様なスタイル、住み続けられる環境を充実させていきます

- 子ども・高齢者・障害者のだれもが住み続け、ふれあえるまちとするよう、多様な人のための良質な住宅を確保
- だれもが心地よく安心して暮らせるよう、太陽の光、風、緑、水辺、街並みを大切にするとともに、日常生活の利便性、安全性を向上
- ★ 安心して暮らせる住まい、都心の環境づくり
- ★ ライフスタイルやライフステージに応じた生活を支援する、子育て・教育、医療・介護、買物環境など日常生活を支える場や機能の誘導
- ★ ライフサイクルに応じた多様な住まいの創出

方針 2 都心の多様な生活・活動が融合し、つながる“場”と“コミュニティ”を創造していきます（暮らし、祭、学び、交流、ビジネスなど）

- 人や文化・芸術とふれあう場、心豊かに、都心生活をより楽しめる場の充実
- ★ まちと人の多様性を活かし、つながり・絆を強めるコミュニティ形成の場の創出（新たに住みはじめる住民、多様なスタイルで働き活動する人、学生・留学生等）
- ★ 外出しやすい空間や施設の連続性と公共空間を活かしたコミュニティとのつながりの創出
- ★ 都心生活を豊かにする公共空間やオープンスペースの整備と活用

方針 3 都心生活の環境を豊かにし、進化させる制度・手法を創造的に活用していきます

- まちづくりと連携した住宅確保、住宅からオフィスへの転用防止策の展開
- ★ 多様なひとが集い、くつろぎ、活動する高質な Mixed-Use の複合市街地の形成
- ★ 高経年分譲マンションの機能更新と周辺住環境の充実
- ★ 適切なサイクルでの建替えの推進やストックの価値を持続向上させるリノベーションの推進

▶ 分野を超えた連携の方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

1 都心の豊かな緑や水辺を感じる身近で居心地のよい空間の充実



分野 2

オープンスペースがつながる良質な空間の創出

- 屋上緑化、オープンスペースや緑道の整備（日照・通風等）
- 緑と水辺環境の保全と充実、連続性の確保（守り、つくり、つなげる）
- 建替えの際しての身近な緑の整備
- ★ 都心ならではの歴史的・文化的資源や潤いある自然など魅力的な居住環境の充実
- ★ 日常生活を楽しめる空間や機能の創出・向上
- ★ 開発に伴う低炭素まちづくりなどの地域の持続性への貢献の誘導

2 まちの固有の味わい、賑わい、文化をつなぐ街並み・市街地環境の継承・進化



分野 3

都心の風格と景観、界隈の魅力を創出・継承するまちづくり

- 個性と魅力ある街並みを大切に、親しまれる住環境づくり

3 スマートなエネルギー利用に対応した住宅供給の促進



分野 7

環境と調和したスマートなまちづくり

- 住宅の低炭素化・省エネ化・スマート化・エネルギーの自立分散化の推進

● 分野 2 ●

オープンスペースがつなぐ良質な空間の創出

未来へのまなざし

居心地のよい空間の多様性

皇居や内濠、外濠など、江戸城の遺構や日比谷公園、靖国神社等の大規模な公園・緑地を基盤として、都心のアメニティや生物多様性を支える緑と水の骨格を継承し、魅力・価値を高めていきます。



江戸城の史跡とともに継承する眺望
皇居を中心としたクールアイランドと風の道
親しみやすい緑と水辺（散歩道、親水空間）
生物の生息空間のつながり

こうした緑と水の骨格を軸として、多様なひとが、それぞれのスタイルで過ごし、居心地のよさや都心生活の豊かさを感じられるような場所をまちのなかで充実させていきます。

そしてエリア全体として、そこで過ごすひとびとや活動の風景が魅力となるよう、地上を歩くひとの目線の高さで、物理的な空間のつながりや、空間を利用した様々な活動の連携を広げていきます。



江戸からの歴史文化、都心の風格、水とのつながりを感じる空間
（江戸城の史跡、水辺、歴史的建造物、界隈性と文化、坂など）
緑や水辺のうるおい、四季の変化を感じられる空間
界隈の個性を活かした文化的・創造的な活動が行われる空間
ゆったり、安心して、自分らしい時間を過ごす空間
（朝活、ランチ、就業時間後の夜の活動など）

まちのなかの居心地のよい空間を形成するべく、道路や公園・緑地、河川などの公共の空間や、開発等によって生まれる民有の空間などがまちの資産として一体性をもって計画され、効果的につながるよう誘導していきます。

また、こうした空間はつくるだけでなく、空間を利用して展開され活動自体がまちの魅力、価値、文化となるよう、維持管理と活用を活発にしていきます。

▶ 千代田区における緑と水辺の整備の概況

● これまでのまちづくりで目指してきたこと ●

■ 緑と水辺を守り、つくり、つなげ、より身近なものに

○都市における緑や水辺などの自然の役割を十分活かす

- ・生活にうるおい、やすらぎを与える ・歩道に木陰をつくる ・ヒートアイランド現象の緩和
- ・大気の浄化 ・鳥や昆虫の棲める環境づくり ・良好な景観づくり ・防災性の向上
- ・都市の環境保全 ・レクリエーション活動の拠点

○今あるかけがえのない豊かな緑と水辺を守り、そしてさらに、つくり、つなげることで、より身近で自然に親しみ、安らぎを感じられるまちにしてい

■ まちづくりの主な取組みと成果

1 地区計画や緑化推進要綱の運用による緑被面積、屋上緑化等の推進

- ◇地区計画による緑化率の最低限度を定める建築制限の運用や千代田区緑化推進要綱による緑化指導により、オープンスペースの創出にあわせた緑化など、敷地内や屋上への緑化を推進し、緑被面積が増加しました。
- ◇都市開発諸制度など大規模開発にあわせて開発事業にあわせて、官民が連携し、空地と良好な緑、水辺の空間を創出してきました。

▼緑化率条例制度の対象地区計画

地区計画	面積 (ha)
一番町地区	22.6
三番町地区	20.7
外神田二・三丁目地区	14.2
外神田五・六丁目地区	8.5
四番町地区	9.7
神田美土代町周辺地区	3.9
二番町地区	12.1
神田須田町二丁目北部周辺地区	5
麴町地区	13
内神田一丁目地区	6.8
内神田二丁目地区	5.4
秋葉原駅付近地区	3.2
神田錦町北部周辺地区	7.9

▼都市開発諸制度等を通じて創出した空地

面積 (㎡)	1998 (平成10) 年から2018 (平成30) 年に整備		
	都市開発諸制度等	創出空地面積 (㎡)	割合 (%)
195,490	再開発等促進区を定める地区計画	64,658	13.3
	特定街区	86,926	18
	高度利用地区	13,375	2.7
	総合設計 (都)	187,600	38.6
	総合設計 (区)	5,542	1.1
	都市再生特別地区	87,082	18
	地区計画による担保	27,350	5.6
	大丸有地区の一般設計	12,960	2.7
	合計	485,493	H9時点の約2.5倍

出典：千代田都市づくり白書(Ⅱ)データ・資料編

2 道路や接道部分の緑化、緑を守る自主的取組みの推進

- ◇千鳥ヶ淵緑道や、大手町川端緑道の整備等、緑豊かな水辺の歩行者ネットワークの拡大を図りました。
- ◇区の花さくら再生事業や道路・公園等のアダプトシステムの促進を通じて緑化推進の普及啓発を図りました。



▶ まちづくりの視点・論点（課題）

居心地の良い空間の多様性のために

◇皇居等の大規模な緑地や身近な緑と水辺と連続性の高いオープンスペースの創出にむけて

土地の高度利用が進む都心において、多くの人に利用される質が高く、居心地の良い緑の空間や身近な緑の創出

生物多様性にも配慮された都市の緑の空間の創出

◇時代にあった価値を生む多彩な空間（場）の創出と活用、活動の発展にむけて

道路・公園・河川等と公開空地等、官と民の緑・空地が連携した公共的空間領域の拡大

水辺空間の質的向上や舟運等のネットワーク化、利活用の推進による水都東京の再生

拠点開発間の緑のネットワークの拡大によるまちの魅力向上

市民緑地認定制度等の活用による民間の緑の空間の利活用

(参考) 関連キーワード

エコロジカルな都心環境	<input type="checkbox"/> エコロジカル・ネットワーク（生態回廊）＋自然や多様な生物との共生　＋水辺や風の道 <input type="checkbox"/> 濠や河川等の水質 <input type="checkbox"/> 身近な緑の地域偏在＋界隈緑化
公共の緑と水辺の空間	<input type="checkbox"/> 千代田区の1人あたり公園面積（日比谷公園等を除くと充足していない） <input type="checkbox"/> 街路樹の維持管理（倒木の危険性等＋データ蓄積）
都心生活の質を高める空間	<input type="checkbox"/> 空間の使い方＋都心生活の価値 <input type="checkbox"/> 過ごしたい（居心地のよい）空間／愛される場所（＋「人の目」の増加による防犯） <input type="checkbox"/> 多様な人が自分の居場所と感ずる空間（住む人、働く人、観光客等） <input type="checkbox"/> 多様な文化やスポーツが楽しめる公園＋東京五輪のレガシー（スポーツカ） <input type="checkbox"/> 夜の水辺空間＋賑わい（施設）
グランドレベルの空間の連続性	<input type="checkbox"/> 外部空間との景観的つながり（屋上緑化、壁面緑化等）＋緑の評価軸（緑視率等） <input type="checkbox"/> グランドレベルの活用、民間の緑＋公共空間の連携
空間の活用と維持管理（マネジメント）	<input type="checkbox"/> 都市計画が担うマネジメント <input type="checkbox"/> 空間の管理・運営（費用や担い手、過ごしたい空間づくり等） <input type="checkbox"/> 「見る緑」や「活用される緑」への公開空地の進化 <input type="checkbox"/> 質的に充実した緑のオープンスペース（維持管理や利活用、居心地の良さなど） <input type="checkbox"/> 空間をいつ、誰が、どのように使うのかという観点が重要 <input type="checkbox"/> 使いたい人が使える運営（マネジメント主体と利用者が乖離しない活用）
環境を豊かにする制度活用	<input type="checkbox"/> 機能更新＋緑や水辺の環境創造の誘導 <input type="checkbox"/> 千代田らしい企業貢献（生物多様性や障害者支援等、様々なメニュー） <input type="checkbox"/> 市民緑化認定制度の活用 （良質で利活用されるオープンスペースの創出） （固定資産税・都市計画税減免のインセンティブと区民への還元のあり方） <input type="checkbox"/> SEGES（緑の認定制度） <input type="checkbox"/> 公共空間評価と Potential Public Resource（公共空間利活用）
区民等の緑とのかかわり	<input type="checkbox"/> 緑の維持管理活用、生物多様性推進・普及に向けた市民参加 <input type="checkbox"/> 街路樹等の適切な維持管理のための合意形成

▶ まちづくりの目標

目 標

皇居を中心とする豊かな緑と水辺のネットワークが拡がり、居心地のよいオープンスペースが創出・連携され、多様な人々が豊かに過ごしている

- ① 千代田区ならではの緑と水辺の価値、その継承とさらなる充実
- ② 都心生活の価値を高める多彩な緑と水辺空間の再生・創出と活用
- ③ 平常時・非常時（災害時）の多面的な空間活用
- ④ オープンスペースから考えるまちづくり

▶ まちづくりの方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

方針 1

豊かな緑と水辺の心地よさが際立つ都心環境を形成していきます

- 今あるかけがえのない豊かな緑と水辺の環境の保全
- ★ 継承すべき江戸の緑と水辺の遺構の顕在化と空間の再生、デザイン
- ★ 質の高い緑と水辺空間のネットワークを展開する環境創造軸の形成
（皇居から展開する生物多様性やヒートアイランドの緩和への配慮）

方針 2

みんなが親しめる公共の緑・水辺の空間の質・機能を高めていきます

- ★ 皇居・濠と連続性の高い公園・緑地の一体的な管理・活用（都市計画中央公園等）
- ★ 緑と水辺の環境、都心の豊かな生活とつながる既存の公園・緑地、街路樹等の効果的な維持管理と再生

方針 3

ひとの目線でうるおいとやすらぎ、都心の楽しさを感じられる“まちなかの空間”を育てていきます

- 身近な緑と水辺をつくり、つなげ、自然に親しみ安らげる場の創出
- ★ 大規模開発などにおける緑と水辺空間の創出、公共空間と敷地内の緑と水辺の連続性の確保（相乗効果）
- ★ ひとの目線からの豊かな都心生活の場となる居心地よい空間デザインの展開
（建物の低層部や空地の連続性と活動、賑わいのつながり、都心ならではの環境を活かした立体的な緑化など）
- ★ まち、人のつながり、価値の創造
- ★ 都心でくつろぎの時間を過ごしながら、眺望を楽しめる空間の創出

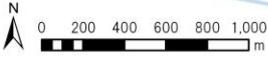
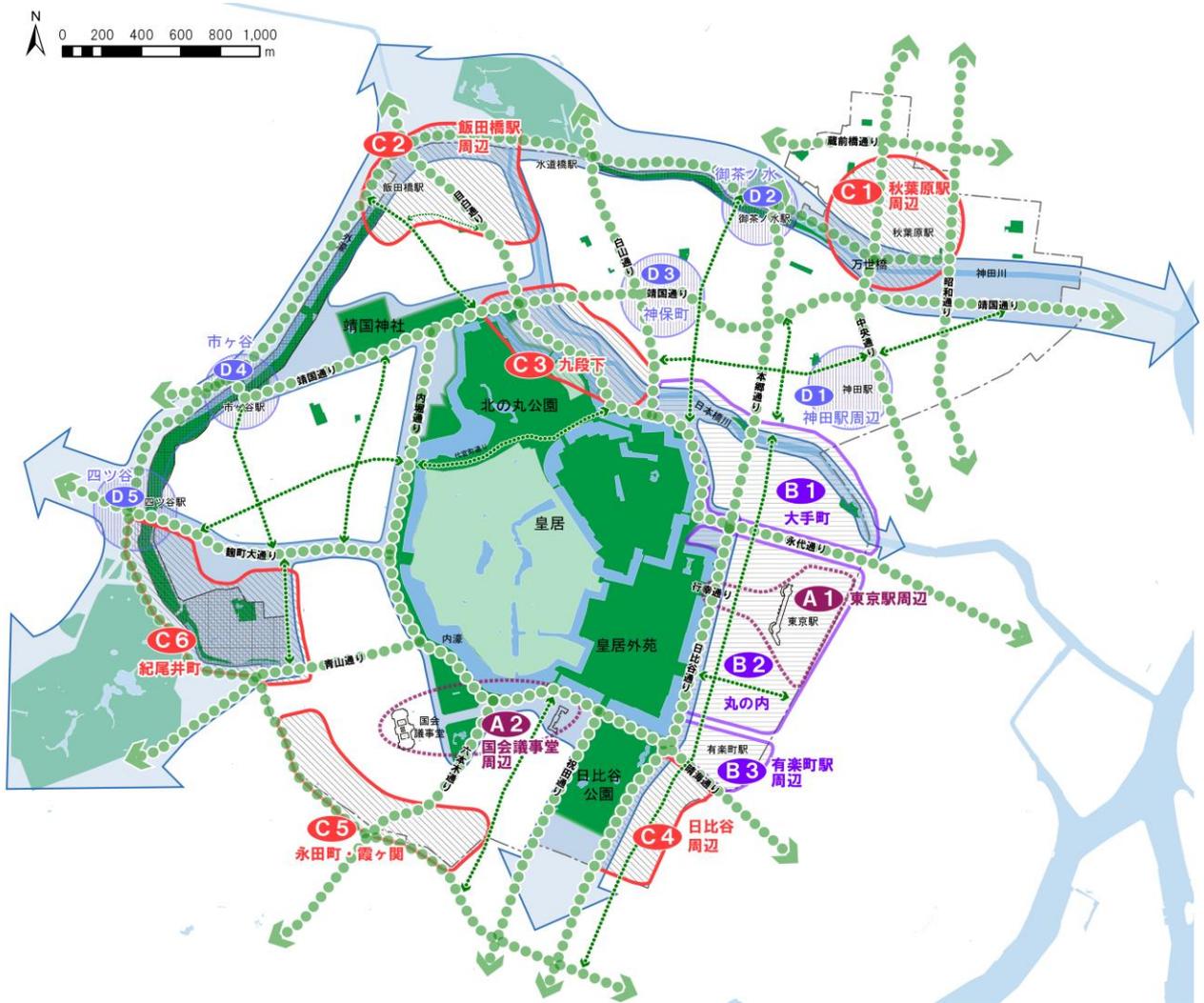
方針 4

まちの多様な空間の価値を高められるよう、まち、ひとの力、制度・手法を戦略的に活用していきます

- ★ 官民の連携による緑と水辺空間の創出、利活用と新たな価値創造の推進。官民連携による「身近な緑」の創出
（新しい文化・コミュニティ・防災の拠点育成、市民緑地認定制度等新たな手法の活用）

▶方針図

オープンスペースがつながり良質な空間の創出



-  環境創造軸
-  都市機能連携軸
-  エリア回遊軸

-  都心・千代田の象徴的拠点 (A 1～2)
-  国際ビジネス・文化交流拠点 (B 1～3)
-  高度機能創造・連携拠点 (C 1～6)
-  まちの魅力再生・創造拠点 (D 1～5)

-  都市計画公園・緑地
-  河川・濠
-  風致地区

都心の骨格的な緑と水辺	
環境創造軸	江戸城の遺構としての歴史性とともに、皇居周辺の大規模緑地、内濠、外濠、日本橋川、神田川の緑と水の骨格を保全・継承していきます。多様な生物が棲息し、多くのひとに親しまれる空間・ネットワークを形成し、豊かで快適な都心環境を創造・継承していきます。
都市機能連携軸	都心の放射・環状の骨格的な道路沿道において、街路樹や特徴ある並木、植栽とその適切な維持・管理などによって、うるおいある環境や沿道の連続性を強めていきます。
エリア回遊軸	まちと駅、個性ある界限をつなぐエリアの主要な道路沿道において、歩きやすく、潤いを感じられる環境、空間の創出を進めていきます。

拠点育成にともない再生・創造する豊かな空間	
都心・千代田の象徴的拠点	東京駅丸の内駅舎、駅前広場、行幸通りなど、首都・東京の顔となる象徴的空間を中心に、周辺街区の建築物や敷地内の空地、道路等の公共空間、地上・地下の通路などがトータルデザインのもとに連続性と一体性を保ち、親しみ活用される拠点としていきます。 国会議事堂及び周辺においては、首都機能を象徴する景観と空間構成を継承する拠点としていきます。
国際ビジネス・文化・交流拠点	都心ならではの国際的な都市機能や多彩な都市機能が高度に集積するなかで、都心の骨格的な緑と水辺との連続性を高めながら、働き、訪れ、滞在するひとがより豊かな時間を過ごし、都心の多彩な活動に参加し、体験・交流できる空間がつながり、広がっていく拠点としていきます。
高度機能創造・連携拠点	まちの顔となる主要な都市機能が集積するなかで、地上・地化、公共・民間の空間の連続的・一体的なデザインや空間活用を進めるなかで、多様なひとが集まり、活動しやすい環境が充実させていく拠点とします。
まちの魅力再生・創造拠点	複数の鉄道路線が交差する利便性の高い駅周辺で、地上・地下の移動しやすい空間、安全でゆったりと滞留できる空間が充実し、駅とまちのつながりを充実させていく拠点とします。

エリアごとの個性的で魅力ある多様な空間のつながり	
麹町・番町・富士見エリア	内濠・外濠などの骨格的な緑と水辺に囲まれ、居住と商業・業務機能、大使館、教育施設などが調和した落ち着いた市街地環境と都心生活がより豊かになるよう、建物（壁面・屋上等）や敷地内の緑化、視覚的な緑の連続性を高め、うるおいを感じる街並みを形成するとともに、世代を超えた交流や多様性を活かした新たなコミュニティ、文化を育てる空間の充実を進めていきます。
秋葉原・神田・神保町エリア	江戸の下町の風情や味わいある建物とともに、路地など奥行きを感じる空間を大切にしながら、道路・公園等の既存の公共空間との一体的な空間、街区レベルの開発等を契機に創出される新たな空間などとともに、まちの活力、賑わい、文化を継承・創造していけるよう、多彩な“場所”を活用し、マネジメントしていきます。
都心中枢エリア	都心・千代田の象徴的拠点、国際ビジネス・文化・交流の拠点において、都心ならではの豊かな空間の創造を進めるとともに、永田町・霞ヶ関の一带（一団の官公庁施設）では、国会議事堂周辺の緑地や日比谷公園、内濠等の水辺と一体的な環境を保ち、緑豊かな国家中枢機能の風格を継承・創造していきます。

▶ 分野を超えた連携の方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

1

江戸城の遺構を骨格として、高低差のある伸びやかな眺望と風致の維持・活用

★ 都市の緑と水辺を活かした良好な景観形成の推進



分野 3

都心の風格と景観、界隈の魅力を創出・継承するまちづくり

2

災害時の機能を考慮した緑・水辺の空間ネットワーク形成

○ 避難路としての機能強化に配慮し、街路樹や植栽帯の充実

★ 災害時等の利用・貢献を想定した緑と水辺の空間デザインの創出や維持管理



分野 6

災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり

3

都心の多様な力を活かして魅力を創造する空間とその維持・管理・活用のデザイン



都市マネジメント

まちづくりのエンジンの進化

● 分野 3 ●

都心の風格と景観、界隈の魅力を 創出・継承するまちづくり

未来へのまなざし

都心の風格とまちの文脈がつなぐ界隈

江戸城の遺構を基本とする歴史的建造物と緑と水の骨格を継承しながら、東京駅丸の内駅舎をはじめとする象徴的な建造物の復原とともに、都市再生の進展にあわせて、首都東京の風格や都心の眺望、文化を楽しめるようデザインされた高質な空間や通りが随所に生まれています。今後も、都心ならではの風格・品格や豊かな空間創造の拡大につながるよう、旺盛な都市再生の活力による貢献を効果的に誘導していきます。



首都東京の象徴的な建造物の保全・復原と空間のデザイン
都市再生による風格ある建物のデザインの継承・復原
都心の風格や眺望を楽しめる空間の創出
江戸・東京の遺構や水辺を活かした空間
都心を楽しむ新たな文化的機能の充実

一方、神田や番町・麹町～富士見の各エリアでは、味わいある下町の風情、都心の落ち着きある高質な居住地、教育施設等が集積する文教地区などにおいて、まちの文脈や文化を感じさせる建物が個々に保全されてきましたが、近年、開発や機能更新が進んだ地区では、界隈を象徴する建物などが減少し、街並みの魅力や味わいが薄れつつあります。そのため、建物の外観だけでなく、まちの文脈や、文化、ひととまちのつながり、なりわいや生活のものがたりの魅力を伝える“場”としての機能を継承・再生し、エリアとして界隈の魅力や味わい、つながりを感じ、楽しめるまちにしていきます。



まちの象徴的な建造物等の保全と活用
まちの資源を活かした界隈の街並み再生（神社、稲荷、史跡等）
リノベーションによる“場”の価値の再生・創造
文化としての活動の広がり
新たな空間・機能の創造的連携
（開発と個別の建物更新、リノベーションの相乗効果）

▶ 千代田区における景観づくりの概況

● これまでのまちづくりで目指してきたこと ●

■ まちの個性や魅力を活かした、愛される景観に

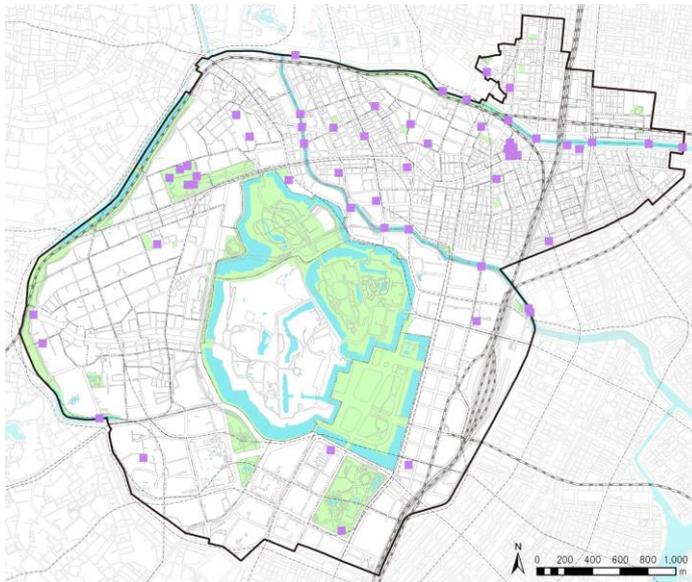
○多様なまちの個性や魅力尊重・活用し、より多くの人に愛される景観としていく

- ・歴史的に継承されてきた象徴的で多様な空間
- ・地域ごとの落ち着いた佇まい
- ・特徴ある産業の集積
- ・豊かな緑と水辺 など

■ まちづくりの主な取組みと成果

1 景観まちづくり条例等に基づく景観指導・景観まちづくり重要物件の指定及び支援

- ◇「千代田区景観まちづくり条例」「千代田区景観形成マスタープラン」に基づき、建築物の新築等に際して、計画段階から相談・協議及び届出を求め、景観上特に必要なものは、都市計画の有識者も参加する「景観まちづくり審議会」に諮り、良好な景観形成を推進してきました。
- ◇区民に親しまれ、景観まちづくり上重要な建造物等を「景観まちづくり重要物件」に指定し、必要に応じ、専門家によるアドバイスや改修の支援を行っています。



- 景観まちづくり重要物件
- 都市計画公園・緑地
- 河川・濠（日本橋川・神田川・内濠・外濠）等
- 鉄軌道（JR）
- - - 鉄軌道（地下鉄）

この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1の地形図を利用して作成したものである。
（承認番号）30都市基交著第44号

出典：千代田都市づくり白書〔Ⅱ〕データ・資料

2 開発事業と契機として歴史を継承する景観づくり

- ◇開発事業も契機としながら、まちに存在する景観資源を保存・活用・創出し、まちの風格や歴史性を継承するための取組みを推進するとともに、緑の確保、賑わい空間の創出を図りました。



▶ まちづくりの視点・論点（課題）

都心の風格とまちの文脈がつなぐ界隈のために

◇歴史的遺構や文化的遺産の顕在化と継承、創造的活用にむけて

歴史的な空間や建造物の活用、緑・水辺空間との連携
 まちの成立ちや生業の集積など地域の文化・文脈の承継と錬磨
 史跡・神社・稲荷等まちなかの歴史的・文化的資源を活かした界隈づくり

◇クリエイティブな活動の場づくり（文化・芸術、健康・スポーツ等）にむけて

祭礼やイベントなど人の活動を景観資源として活かせる道路や公共空間のあり方
 シェアハウス・シェアオフィス等シェア空間の増加など、職住以外の都市生活の多様化への対応

◇界隈の味わいやまちの文脈、ものがたりを感じるまちづくりの展開にむけて

都市の進化や国際化に対応した新たな景観創出のあり方
 都市におけるわかりやすいサイン表示の推進
 屋外広告物規制・誘導と連携した景観形成

(参考) 関連キーワード	
象徴となる景観	<input type="checkbox"/> 江戸城の遺構（濠や河川）等の水と緑を活かした景観形成（都市の価値） <input type="checkbox"/> 千代田区の象徴的拠点 <input type="checkbox"/> 歴史的に継承されてきた空間と最先端の都市景観形成との調和 <input type="checkbox"/> 眺望を楽しむ多様な視点場 （外濠・内濠・見附跡／行幸通り／皇居外苑等の象徴的な公共空間） （大規模開発に伴う公開性の高いビューポイント）
「文化」とまちづくり	<input type="checkbox"/> 有形・無形の文化（都市形成の中での「人の思い」「活動」） <input type="checkbox"/> 更新時期の建物や街区の歴史、人の思いや営みを尊重し、つなぐ地域らしさ （再生すべき昔ながらの文化をどのような形で残していくのか等） <input type="checkbox"/> 歴史的な空間や建造物、まちなかの小さな歴史・文化資源（稲荷等）
界隈性	<input type="checkbox"/> まちの魅力・アイデンティティの詰まった規模感 （電気街、スポーツ用品店街、楽器店街、古書店街など） <input type="checkbox"/> 区界を超えて連坦するまちの個性が融合し、高度な機能連携やエリアの回遊性
多様性と界隈の新たな魅力	<input type="checkbox"/> 関係人口＋質の高い体験型観光都市づくり（ICT活用） <input type="checkbox"/> 外国人にも楽しんで知ってもらえるサイン（QRコード等）（まちの歴史、江戸の資産等） <input type="checkbox"/> ナイトエコノミー（都） <input type="checkbox"/> 都市観光・MICE ニーズ ＋ アフターコンベンション機能
整備・開発にあわせた景観形成	<input type="checkbox"/> 電線類地中化、緑化 <input type="checkbox"/> 老舗企業や書店街等の家業の継承、特徴的なエリアイメージを形成する街区の継承 （容積率売買の検討、大学との連携等の全国に先駆けた取り組み）
景観形成の法制度	<input type="checkbox"/> 東京都景観計画、美観地区（旧） <input type="checkbox"/> 景観行政団体（地域特性に応じた景観形成に向けた計画・ガイドライン）

▶ まちづくりの目標

目 標

歴史と先進性が共存・融合する都心の風格をより際立たせ、味わいや風情、多様な生活と文化を感じられる界隈を伝えていく

- ① 都心の風格の継承・創造
- ② 地形の特徴や地域資源等を活かした景観の保全、形成
- ③ 界隈の個性を活かした魅力再生・継承

▶ まちづくりの方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

方針 1 江戸城の遺構を骨格とした都心の象徴的な景観や眺望、風格ある街並みを継承し、楽しめるようにしていきます

- 歴史的に継承されてきた象徴的で多様な空間の活用
- 質の高い景観の保全と創出
- ★ 江戸の遺構を継承し活かす、都心の風格・歴史資産の顕在化と高質な空間デザイン、視点場の創出

方針 2 起伏のある地形やまちの個性を彩る界隈の要素、文化を活かした街並み、環境づくりを進めます

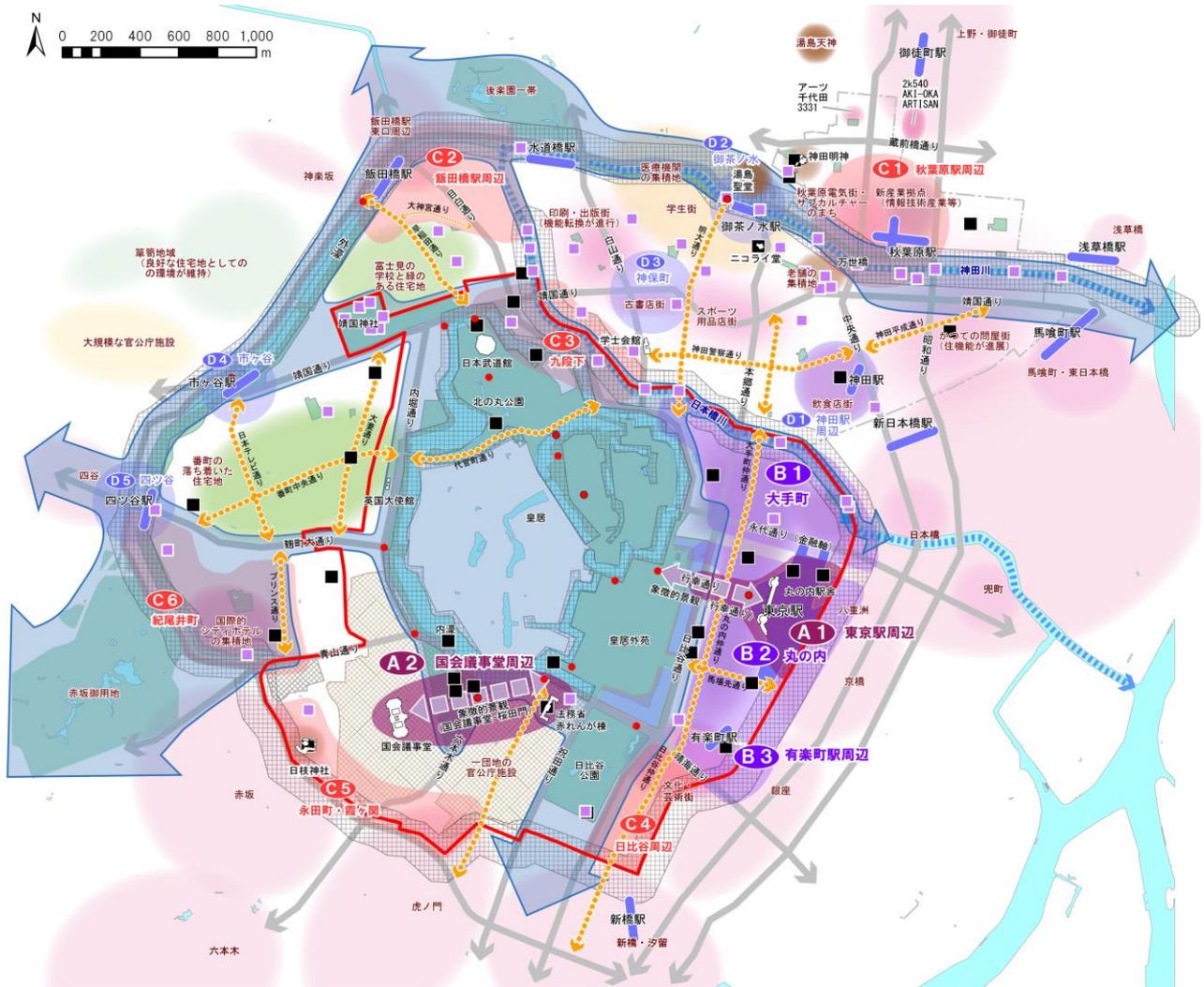
- 多様な地域ごとの個性を活かし、一体として美しい眺めをつくる
- ★ 坂や崖線など周辺の地形等の特色を活かした景観形成の推進
- ★ 味わいある建物や空間を活かした界隈性、楽しく歩ける街並み再生等の手法の確立
(地区計画等の手法の効果的な活用等)
- ★ 新たな観光・体験・交流・滞在の場としての界隈を楽しむ魅力、空間・機能の創出
- ★ 近接する区外の個性ある界隈との相乗効果を高める界隈づくり

方針 3 まちの文脈、個性、なりわいや文化のつながりを感じるまとまりあるエリアで、都心の風格や界隈性を継承し、魅力を高めるための制度・手法を確立していきます

- 多様な地域ごとの個性を活かし、一体として美しい眺めの創出
- ★ まちづくりや開発誘導のなかでの魅力・価値の継承・再生・創造のしくみづくり
- ★ 界隈の個性を際立たせる生業や祭礼・イベントなど、まちの魅力ある活動を楽しみ、体験・交流が広がる場づくり
(界隈の個性を際立たせる生業の継承・再生のしくみ、祭礼・イベント等の活動を風景として楽しむ空間の創出と活用のしくみなど)

▶方針図

都心の風格と景観、界隈の魅力を創出・継承するまちづくり



<ul style="list-style-type: none"> 環境創造軸 都市機能連携軸 エリア回遊軸 	<ul style="list-style-type: none"> 都心・千代田の象徴的拠点 (A1~2) 国際ビジネス・文化交流拠点 (B1~3) 高度機能創造・連携拠点 (C1~6) まちの魅力再生・創造拠点 (D1~5) 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画公園・緑地 河川・濠 特別史跡江戸城跡、史跡 江戸城外堀跡 旧美観地区 一団地の官公庁施設
---	--	--

<ul style="list-style-type: none"> 史跡、文化財等 (国重要文化財、都・区文化財) 日本橋川～神田川の軸 主な眺望点 (東京都景観計画) 景観まちづくり重要物件 	<p>区内外の個性ある界隈</p>
---	-------------------

▶ 分野を超えた連携の方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

1 都心の豊かな緑と水辺とまちをつなげる景観形成



分野2

オープンスペースがつなぐ良質な空間の創出

- 大規模な緑地空間、水辺空間の保全・活用
- 身近な緑を守り、育み、安らぎのある景観づくり
(公園・広場・公開空地、民有地の庭や屋上・バルコニーなど)
- ★ 次世代における緑地と水辺のつながりのデザイン
- ★ 開発に伴う良質な緑の創出と居心地の良い空間の創出・活用
- ★ 水辺に親しめる空間の創出、水辺に顔を向けた建築誘導による景観形成の推進

2 移動しやすく、歩いて心地よい環境とみちの景観づくり



分野4

道路・交通体系と快適な移動環境の整備

- わかりやすく周囲の景観と調和した美しいデザインとなる、まちを案内するサイン（案内表示）、商店・オフィス等の看板の整備・誘導
- 電柱や電線の地中化
- 歩道にはみ出した立て看板、違法駐車・駐輪、ごみのポイ捨てなどの改善
- ★ 近接する区外の個性ある界隈との相乗効果を高める移動しやすい環境の充実

● 分野 4 ●

道路・交通体系と快適な移動環境の整備

未来へのまなざし

交通結節機能と移動ネットワーク

都市骨格軸を基本とした放射・環状の道路体系が確立されつつあるなか、災害時にも寸断されることのない都市基盤として強靱性を高めていくとともに、鉄道、バス、コミュニティサイクルなど、高度化された移動ネットワークを有する千代田区の魅力やポテンシャルがさらに高まるよう、高齢者をはじめ、都心の多様な生活者、来訪者、滞在者等が公共交通をつかって安全かつスムーズに移動できる環境を一層充実させていきます。



都市骨格軸を形成する道路体系の確立
鉄道駅へのスムーズなアクセス、駅と周辺のまちのつながり
多様なひとの移動サポート環境、災害時の持続性

さらに、高度に集積するひとの多様性をふまえて、技術革新の進展や人生 100 年時代の到来、自動車利用の減少などの変化やニーズにいち早く対応できるよう、社会実験等で、次世代の交通・移動のシステムの実装化に挑戦し、
交通モードを高度化・多様化していくこと、
シームレスな乗り換えで都心の移動環境をより快適にすること、
個性豊かな界隈をゆったりとしたスピードで移動して楽しむ環境を充実すること、
街区構成、歩行者・自動車の通行状況に応じて道路・駐車場等を再編すること など
道路・交通基盤とひとの移動の最適なマネジメントによって、
都心の移動と様々な都心生活や活動を支え、魅力・活力を高めていきます。



多様な交通モードとその結節点（シームレスな乗り換え環境）
技術革新への対応・実装化に向けた取組み（社会実験等）
ヒューマン（スロー）なスピードでまちの魅力を楽しむ移動
高度なひとの集積や多様性、活動を支える交通・移動マネジメント

▶ 千代田区における道路・交通体系整備の概況

● これまでのまちづくりで目指してきたこと ●

■ 歩行者と環境にやさしいみち、駅に

○道路の多様な機能を調和させ、生活者の視点で人にやさしいみちをつくとともに、鉄道駅をより快適、安全に使えるようにしていく

- ・人・物の移動 ・人と人とのふれあいや賑わいの場の形成 ・緑の創出
- ・歴史・文化の継承 ・防災 ・上下水道等の都市施設の収納 ・通風・採光 など

○自動車交通による環境への負荷を減らすため、自動車交通への抑制・分散や円滑化、公共交通機関の整備充実・利用促進等に取り組む

■ まちづくりの主な取組みと成果

1 歩道や交通安全のための設備等の整備、電線類地中化の推進

- ◇駅の改修や駅周辺の開発に併せて駅前広場や自由通路の整備、地下空間のネットワーク化やエレベーター等の整備によるバリアフリー化を推進しました。
- ◇平成10（1998）～29（2017）年度の約20年間で、歩道、歩道用防護柵（ガードパイプ）等約10,000mを整備しました。
- ◇道路のバリアフリー化、景観の向上、災害時の救助・救援活動の円滑化を図るため、無電柱化を推進しています。（国道100%、都道約98%、区道約29%の整備率）無電柱化が困難な11m未満の狭幅員の区道においても、面的な都市開発事業に合わせて推進してきました。

2 駐車場、自転車駐車場の整備等

- ◇自転車駐車場の整備を進め、放置自転車の撤去台数が減少傾向を続けています。

3 コミュニティサイクル事業の推進・自転車道の整備

- ◇回遊性の創出によるまちの魅力の向上、地域・観光の活性化、放置自転車対策をはじめ、自動車から自転車への転換を図ることによるCO₂の排出量の削減等の幅広い効果を期待して、自転車利用の推進のためのコミュニティサイクル（シェアサイクル）事業を開始し、周辺区も含め広域的な運用を実現し、都心部を中心としたシェアサイクルの普及に貢献しました。
- ◇「自転車利用ガイドライン」に基づき、自転車レーンなどの整備に取り組んでいます



4 地域福祉交通「風ぐるま」の推進

- ◇高齢者、障害者及び子育て世代を始めとする区民のための地域福祉交通として、地域福祉の推進とノーマライゼーション実現を図る目的で運行しています。区民をはじめだれでも利用が可能で、運行コースは区の施設や福祉施設を中心に、番町地域～和泉橋地域等人口が集中するエリアを網羅しています。



▶ まちづくりの視点・論点（課題）

交通結節機能と移動ネットワークのために

◇安全・快適で分かりやすい交通結節機能の強化（高齢化や国際化の進展への対応）にむけて

超高齢社会の到来、障害者等の社会参加の推進、インバウンドのさらなる増加等を見据え、ユニバーサルデザインにも配慮した移動しやすい環境の整備

駅・まちが一体となった効果的な基盤整備、空間再編等のあり方

◇交通モードの多様化への対応と最適化にむけて

シェアリングエコノミーの進展や自動運転技術の進歩に伴う次世代の移動環境のあり方

◇都心における自動車利用の動向をふまえた道路空間・駐車施設と交通のマネジメントにむけて

公共交通機関の更なる利便性向上と自動車の保有率の低下や、三環状道路など広域的な道路ネットワークの整備の進展に伴う区内自動車交通量の減少傾向などを踏まえた道路空間や駐車場の適正配置、街区構成のあり方

都市計画道路の整備・見直しの方針

(参考) 関連キーワード	
全体戦略 とマネジメント	<input type="checkbox"/> 次世代モビリティの方針（+土地利用計画・交通計画） <input type="checkbox"/> 地区レベルの将来的な交通のあり方 （道路空間再編、自動運転区間導入の是非等） （自動車交通量の変化、自動運転などの技術革新、超小型モビリティの普及の進展、多様な移動モードのネットワーク化などへの対応）
交通結節点 の移動環境	<input type="checkbox"/> 駅前空間の立体的な再生、道路・駅・まちが一体となった都市基盤 （道路上空の歩行者専用デッキ、広場、サンクンガーデンなど）
ひと優先の 道路空間の 安全・快適性	<input type="checkbox"/> ひと優先のまちづくり、みちづくり <input type="checkbox"/> ウォークアブル + ウォーキングルート（歩ける屋外空間の環境） <input type="checkbox"/> 電線類地中化
進化する 交通モード	<input type="checkbox"/> ICTを介して多様な交通モードがシームレスにつながる移動（MaaS） <input type="checkbox"/> 安全で快適に自転車を利用できるまち <input type="checkbox"/> 短距離移動に適した小型モビリティ等の新たな交通モード+既存交通ネットワーク <input type="checkbox"/> シェアリング（自転車、小型モビリティ等） <input type="checkbox"/> 舟旅（舟運） <input type="checkbox"/> 多様な機能を踏まえた道路整備の方針 + 運用 <input type="checkbox"/> 区界を超えた自動運転ルートを想定した他区との空間的つながり
開発等に伴う 道路整備	<input type="checkbox"/> 開発等と連携した狭幅員区道の地中化推進
変化する需要 と課題の対応	<input type="checkbox"/> 駐車実態や地域特性を踏まえた駐車場のあり方 （駐車場整備計画、駐車施設の集約化等） （現状及び欧米を含めた事例研究・・・カーシェア駐車場への転換等） <input type="checkbox"/> 駐車問題の多様化（観光バス、荷捌き車両、自動二輪車等）
合意形成	<input type="checkbox"/> 道路整備に向けた合意形成手法

▶ まちづくりの目標

目 標

都心の移動をより快適で楽しくするしかけや、多様な交通モードをつないで利便性の高い交通結節機能を進化させていく

- ① 広域的・骨格的な移動軸の強化
- ② 都心生活を支える交通結節機能の充実と多様な交通モードの展開
- ③ 誰もが快適に移動できる環境の創造
- ④ 技術革新や街区の実情に対応した高度で柔軟な交通と物流のマネジメント

▶ まちづくりの方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

方針 1

拠点における交通結節機能を充実させていきます

- だれもが安心して、心地よく楽しく歩けるみちづくり
- ★ 国内外からの来訪者の増加に対応した都心アクセスの拠点機能の充実
- ★ 公共交通の拠点である駅周辺のまちづくりと連携して、地上・地下をつなぐ安全で快適な移動環境の創出（駅前広場空間や道路・地上と地下をつなぐ歩行者通路等の整備による利便性向上など）

方針 2

駅（地上・地下）とまち、緑・水辺、界隈をつなぐ快適な移動空間・移動環境を創出していきます

- だれもが安心して、心地よく楽しく歩けるみちづくり
- ★ ゆったりしたスピードで個性ある界隈の魅力を感じ、移動できる環境の充実

方針 3

まちやひと、都市活動の特性・課題に応じたブロックごとの最適な移動をマネジメントしていきます

▷ 多様でシームレスな移動モード ▷ 自動車交通と駐車場のマネジメント

- ★ 都心生活の場面や移動距離等に応じて選択可能な交通モードの多様化
- ★ 技術革新の進展に対応した移動環境システムの導入（実証実験・実装化）
- ★ 自動車利用の変化や街区の実情に対応した駐車場などの最適化
- ★ I o T でつながるモノの移動（荷捌き等）の円滑化やサービスの進化に対応した空間・施設の誘導

方針 4

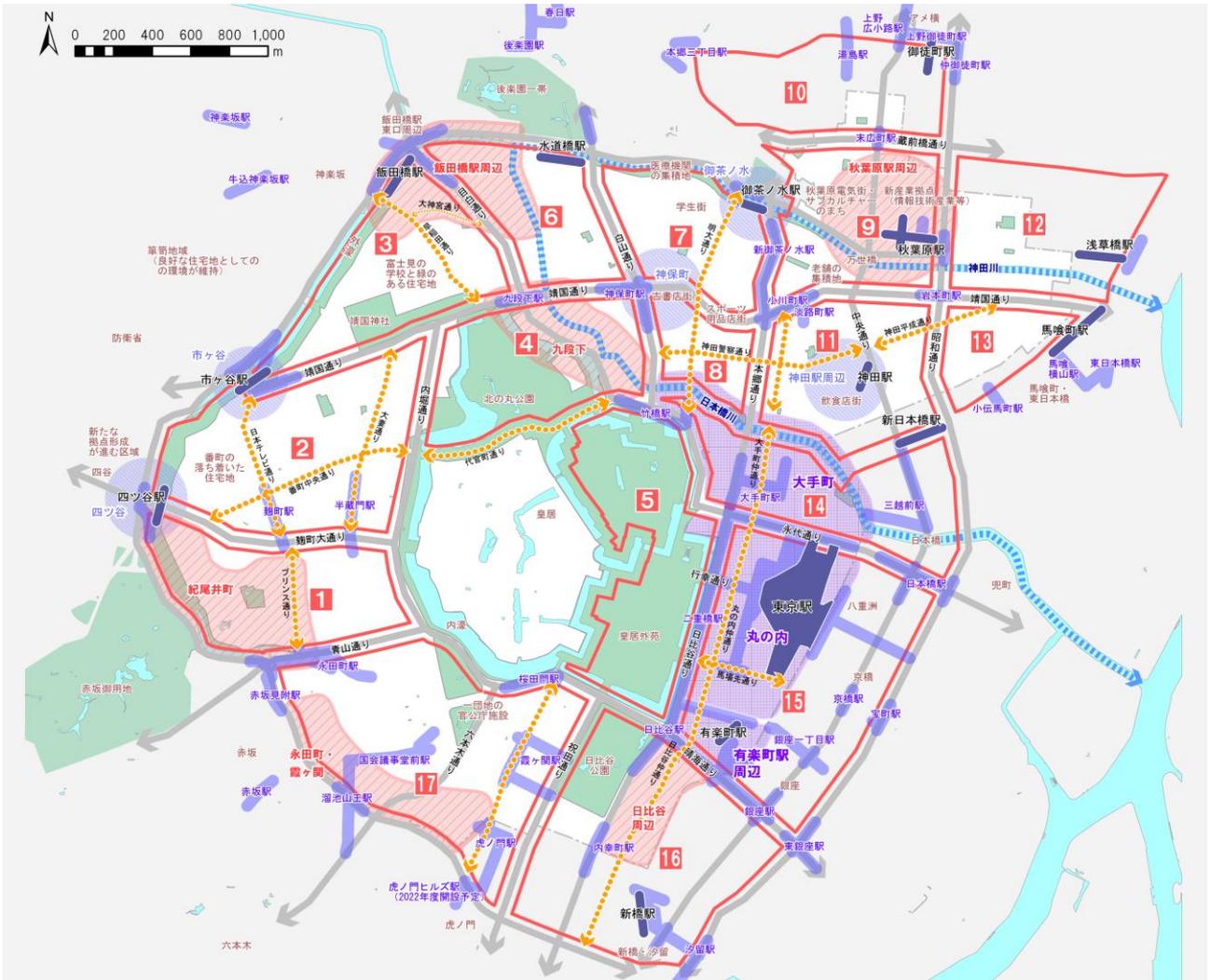
まちの交通需要の変化や移動マネジメントの戦略に応じて、ひとの目線から道路空間の創造的な再編・活用を進めていきます

▷ 歩きやすいみち／使いやすいみち／おでかけが楽しいみち

- 道路のもつ多様な機能に応じた体系的な整備
- ★ 歩行者や自転車優先のみちづくりを推進する道路空間のリメイク
- ★ 自動車利用の変化や街区の実情に対応した道路空間の最適化

▶方針図

道路・交通体系と快適な移動環境の整備



-  都市機能連携軸
-  エリア回遊軸
-  国際ビジネス・文化交流拠点
-  高度機能創造・連携拠点
-  まちの魅力再生・創造拠点

-  最適な「移動」のマネジメントを考えるブロック (1~17)
-  鉄道駅 (JR)
-  地下鉄駅とまちをつなぐ通路等
-  日本橋川~神田川の軸

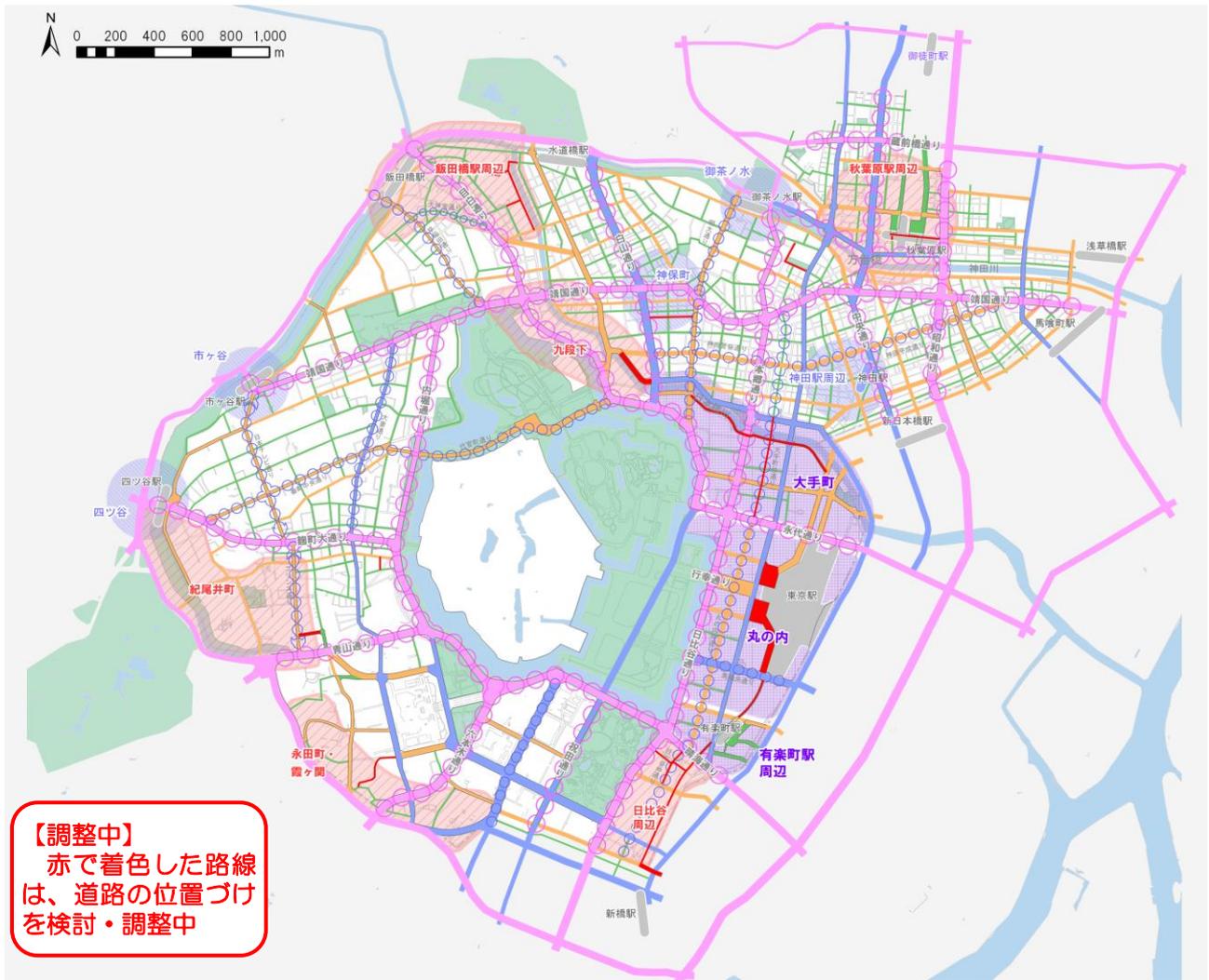
-  都市計画公園・緑地
-  河川・濠

ブロックごとの最適な“移動マネジメント”のポイント

1	<p>■ 麴町大通り、青山通り、内堀通り、外堀通りで囲まれたブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽田空港から千代田区へのアクセス拠点（国際ホテル） ・四ツ谷駅、赤坂見附駅、麴町駅、半蔵門駅にアクセスしやすい移動環境 ・プリンス通りを主軸にした高低差のある地形の回遊と移動性 ・皇居ランを楽しむコース（内堀通り）
2	<p>■ 麴町大通り、靖国通り、内堀通り、外堀通りで囲まれたブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市ヶ谷駅周辺（交通結節拠点）～麴町駅（日本テレビ通り）の移動環境（地形の高低差の克服、地上・地下の円滑な垂直移動、沿道の歩行空間など） ・四ツ谷駅（交通結節拠点）、半蔵門駅にアクセスしやすい移動環境 ・日本テレビ通りの賑わいの連続性を維持する駐車場ルール（通り沿いの駐車場確保のあり方） ・日本テレビ通りの円滑な荷捌きのシステムと歩きやすい環境形成 ・内濠・外濠の豊かな環境、まちの歴史性・文化性、坂の風情を楽しむ回遊 ・皇居ランを楽しむコース（内堀通り）
3	<p>■ 靖国通り、外堀通り、目白通りで囲まれたブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田橋駅及び周辺（高度機能創造・連携拠点）の再整備とアクセスしやすい移動環境 ・九段下駅周辺（高度機能創造・連携拠点）、市ヶ谷駅（交通結節拠点）にアクセスしやすい移動環境 ・外濠、靖国神社の豊かな環境、牛込見附跡・市谷見附跡等のまちの歴史性を楽しむ回遊 ・早稲田通りを軸とした北の丸公園・靖国神社～飯田橋～神楽坂の回遊
4	<p>■ 靖国通り、内堀通り、白山通り、代官町通りで囲まれたブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九段下駅周辺（高度機能創造・連携拠点）、神保町駅（交通結節拠点）、竹橋駅にアクセスしやすい移動環境 ・北の丸公園、千鳥ヶ淵の豊かな環境を楽しむ回遊 + 皇居ランを楽しむコース（代官町通り） ・日本橋川の活用
5	<p>■ 皇居東御苑と皇居外苑のブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸城の史跡、豊かな環境や都心のパノラマを楽しむ回遊（本丸跡、二の丸雑木林、二の丸庭園、皇居前広場など） ・皇居ランを楽しむコース（桜田門～皇居外苑～内堀通り） ・大手町駅・二重橋駅・日比谷駅（国際ビジネス・文化交流拠点）、竹橋駅、桜田門駅にアクセスしやすい移動環境
6	<p>■ 靖国通り、外堀通り、目白通り、白山通り、で囲まれたブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田橋駅及び周辺（高度機能創造・連携拠点）の再整備とアクセスしやすい移動環境 ・九段下駅周辺（高度機能創造・連携拠点）、神保町駅（交通結節拠点）、水道橋駅にアクセスしやすい移動環境 ・飯田橋～後樂園（文京区）～水道橋の回遊 ・日本橋川・神田川の活用
7	<p>■ 靖国通り、外堀通り、白山通り、本郷通りで囲まれたブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御茶ノ水駅及び周辺（交通結節拠点）の駅空間再整備とアクセスしやすい移動環境 ・神保町駅（交通結節拠点）、新御茶ノ水駅、小川町駅にアクセスしやすい移動環境 ・本郷通りと明大通りを主軸にした高低差のある地形の回遊と移動性 ・大学キャンパスや医療機関が集積する神田駿河台の移動性 ・神保町（古書店街）・小川町（スポーツ用品店街）～神田駿河台～湯島（文京区）の回遊 ・神田川の活用
8	<p>■ 靖国通り、白山通り、本郷通り、日本橋川囲まれたブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明大通り（千代田通り）、神田警察通りを主軸にした回遊と移動性 ・街区レベルの開発に伴って創出される公開空地や既存の道路・公園、建物内の空間のつながり ・神保町（古書店街）・小川町（スポーツ用品店街）の回遊 ・日本橋川の活用

9	<p>■靖国通り、蔵前橋通り、本郷通り、昭和通りで囲まれたブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋葉原駅及び周辺（高度機能創造・連携拠点）の高度な駅空間の活用とアクセスしやすい移動環境 ・末広町駅、岩本町駅、小川町駅、淡路町駅、新御茶ノ水駅にアクセスしやすい移動環境 ・高度な拠点機能（電気街、サブカルチャー、情報技術産業等）に集積する多様なひとの集積に対応した滞留・移動環境 ・下町エリアにおけるひと優先のみち、交通のあり方（道路の空間構成の再編、駐車場、荷捌き等のあり方） ・神田川の活用
10	<p>■蔵前橋通り以北のブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・末広町駅、本郷三丁目駅、御徒町駅、上野御徒町駅、上野広小路駅、仲御徒町駅にアクセスしやすい移動環境 ・文京区・台東区のエリアと連携した回遊 ・下町エリアにおけるひと優先のみち、交通のあり方（道路の空間構成の再編、駐車場、荷捌き等のあり方）
11	<p>■靖国通り、本郷通り、日本橋川で囲まれたブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神田駅（交通結節拠点）、小川町駅、淡路町駅、岩本町駅、新日本橋駅、三越前駅にアクセスしやすい移動環境 ・中央通りを軸とした神田～日本橋の回遊 ・神田警察通り、神田平成通りを主軸にした回遊と移動性 ・大手町との連携軸と人の流れ（大手町仲通りから日本橋川を越えて連携する回遊軸） ・神田の賑わいの連続性を維持する駐車場ルール（通り沿いの駐車場確保のあり方） ・下町エリアにおけるひと優先のみち、交通のあり方（道路の空間構成の再編、駐車場、荷捌き等のあり方） ・日本橋川の活用
12	<p>■靖国通り以東、昭和通り以北のブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋葉原駅及び周辺（高度機能創造・連携拠点）、岩本町駅、浅草橋駅にアクセスしやすい移動環境 ・下町エリアにおけるひと優先のみち、交通のあり方（道路の空間構成の再編、駐車場、荷捌き等のあり方） ・神田川の活用
13	<p>■靖国通り、昭和通りで囲まれたブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩本町駅、馬喰町駅、馬喰横山駅、東日本橋駅、小伝馬町駅にアクセスしやすい移動環境 ・下町エリアにおけるひと優先のみち、交通のあり方（道路の空間構成の再編、駐車場、荷捌き等のあり方）
14	<p>■永代通り、内堀通り、日本橋川で囲まれたブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心・千代田の象徴的拠点、国際ビジネス・文化交流拠点における移動環境（東京駅・大手町駅、永代通り） ・竹橋駅、日本橋駅、三越前駅、東日本橋駅にアクセスしやすい移動環境 ・大手町仲通りを軸とした回遊と移動性と多様なオープンスペースの連続的なつながり ・自動運転等の技術革新をふまえた多様な交通モードのマネジメントと自動車交通需要に応じた駐車場等のあり方 ・日本橋川の活用
15	<p>■永代通り、内堀通り、晴海通りで囲まれたブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心・千代田の象徴的拠点、国際ビジネス・文化交流拠点における移動環境（東京駅・丸の内駅・二重橋駅）（有楽町駅・日比谷駅）（永代通り） ・日本橋駅、京橋駅、宝町駅、銀座駅、銀座一丁目駅、東銀座駅にアクセスしやすい移動環境 ・丸の内仲通り、馬場先通りを軸とした回遊と移動性と多様なオープンスペースの連続的なつながり ・自動運転等の技術革新をふまえた多様な交通モードのマネジメントと自動車交通需要に応じた駐車場等のあり方
16	<p>■晴海通り、祝田通り、環状2号線で囲まれたブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有楽町駅（国際ビジネス・文化交流拠点）、日比谷駅周辺（高度機能創造・連携拠点）、内幸町駅、銀座駅、東銀座駅、新橋駅、汐留駅にアクセスしやすい移動環境 ・日比谷仲通りを軸とした回遊と移動性、多様なオープンスペースの連続的なつながり ・日比谷公園～日比谷～銀座（中央区）、日比谷～虎ノ門（港区）、日比谷～新橋・汐留（港区）の回遊
17	<p>■青山通り、内堀通り、外堀通り、祝田通りで囲まれたブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国会議事堂前駅・永田町駅における移動環境 ・霞ヶ関駅、桜田門駅、赤坂見附駅、溜池山王駅、虎ノ門駅、虎ノ門ヒルズ駅にアクセスしやすい移動環境 ・国会議事堂や桜田門など国家中枢機能の風格あるエリアの回遊＋皇居ランを楽しむコース（内堀通り）

▶ 附図 多様な機能を分担する道路体系



【調整中】
赤で着色した路線は、道路の位置づけを検討・調整中

- ○ ○ ○ ○ 都市機能連携軸
- ○ ○ ○ ○ エリア回遊軸
- 国際ビジネス・文化交流拠点
- 高度機能創造・連携拠点
- まちの魅力再生・創造拠点

- 主要幹線道路
- 幹線道路
- 地区内主要道路
- 主要区画道路
- 区画道路

- 都市計画公園・緑地
- 河川・濠
- 鉄道駅（JR）

位置づけ		方針
広域的な交通を処理する道路 都心の骨格を形成する道路として整備の推進を図り、街並みや環境形成、広域的な移動の軸としての機能を確保するとともに、大規模災害時にも機能するよう、適切な更新や維持管理を関係機関に働きかけていきます。		
主要幹線道路	都市の骨格を形成し、都市間交通や通過交通等の広域的な交通を処理する	現状の都市計画道路を基本として、国・都の各整備担当機関に事業推進を要請します
幹線道路	主要幹線と並んで都市を形成し、広域的な交通と地区内の交通を処理する	
生活に密着した地区内の交通を処理する道路 将来の自動車利用や移動・物流等の需要、自動運転等の技術革新等を見据え、ブロックごとの最適なマネジメントを進めるなかで、ひと優先で移動しやすい道路への空間再編等のあり方を見直していきます。		
地区内主要道路	地区の骨格を形成し、地区レベルの交通を集約的に処理する	地区内の主要な路線として、防災にも配慮した安全な「交通軸」、通勤通学や買い物等における快適な「生活軸」、緑とゆとりのある快適な「環境軸」などの多様な機能を備えるよう整備します。 〔配置〕 現存する道路を基本としつつも、各種開発事業に際しては概ね 300m に一路線とすることを基準とし、幅員 13m（車道部 7m・歩道部 3m×2）を目標とします。
主要区画道路	各区画道路の交通を地区内主要道路に集約する役割を担う	区画道路のうち主要な路線であり、歩行者の利用も多いため、通過交通の抑制と歩車共存型道路の形成に努め、一方通行を検討するなど、地域のコミュニティ空間としても機能するよう整備します。 〔配置〕 現存する道路を基本としつつも、各種開発事業に際しては概ね 150m に一路線とすることを基準とし、幅員は消防活動を考慮して 6～8m を目標とします。
区画道路	最小単位の道路であり、個々の宅地へのアクセスを担う	個々の宅地にアクセスする最小単位の道路であり、歩行者の安全性に特に留意して整備します。 〔配置〕 現存する道路を基本としつつも、各種開発事業に際しては歩行者の安全性、防災性、緊急車両の通行等を考慮して計画します。

▶ 分野を超えた連携の方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

1 界隈の回遊を楽しむみちづくり

- 道路通称名の設定、案内表示板の整備
- ★ 高齢化、多言語化に対応したわかりやすいサイン・情報の充実



分野3

都心の風格と景観、界隈の魅力を創出・継承するまちづくり

2 誰もが安心して歩けるみちづくり

- 歩道の段差解消、災害時の避難経路としての整備



分野5

多様性を活かすユニバーサルなまちづくり

3 大規模災害時に機能する都市の骨格形成

- ★ 大規模災害時に機能する都市骨格軸の確立



分野6

災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり

4 移動にかかる環境負荷の軽減

- 都心の活動と生活を支える公共交通機関の整備と利用促進
(公共交通機関の整備と利用促進、時差出勤によるラッシュ時の混雑緩和、自動車交通量の抑制、自転車の利用促進等)



分野7

環境と調和したスマートなまちづくり

5 官民連携のみちづくり

- 歩道の整備・拡幅
- 街路樹や植栽帯の整備
- 民有地・建物の緑化
- 壁面後退
- 公開空地の創出
- 電線類の地中化
- 違法駐車・違法駐輪・路上看板などの適正化



都市マネジメント

まちづくりのエンジンの進化

● 分野 5 ●

多様性を活かすユニバーサルなまちづくり

未来へのまなざし

障壁のない多様な活動と交流

子どもや高齢者、障害者を含む全ての人にとって暮らしやすい住宅整備、まちの環境や駅、みち、住宅・施設の整備が一定程度進んできたなかで、子どもやファミリー層の増加、高齢化の進行などの見通しやニーズを踏まえて、安心できる居場所があり、おでかけがしやすく、社会とのかかわりをもちながら、自分らしく生活・活動できる環境を充実させていきます。



駅とまちをつなぐバリアフリールート

多様な人が安心してすごせる、まちのなかの居場所

気軽におでかけできる環境

子育て、医療や地域包括ケアなど、
住み慣れたまちで永く暮らせる環境

また、都心には、外国人（観光客・ビジネスワーカー、居住者など）のほか、様々なバックボーンをもって、多くの人が滞在・活動しています。こうした人々がタイムリーに必要な情報を取得して都心生活を楽しむとともに、柔軟で自分らしい時間を過ごし、活発化に活動することで、都心千代田らしい多様な交流のなかで、豊かな文化や価値の創造されていくよう、活動の障壁の少ないユニバーサルな環境を充実させていきます。



ICTと連動し、AI技術を活かした情報案内

都心における多言語対応

誰にもわかりやすい情報・サイン（ピクトグラム等）＋
柔軟な空間・施設、移動サービス等の利用（シェア）環境
（オープンスペース、オフィス、コミュニティサイクルなど）

▶ 千代田区における福祉のまちづくりの概況

● これまでのまちづくりで目指してきたこと ●

■ だれもが暮らしやすく、活動しやすいまちに

○子どもや高齢者、障害者を含む全ての人にとって暮らしやすく、活動しやすいまちとしていく

○高齢者も障害者も安心して住み続けられる住宅、だれもが安心して豊かな暮らしを送れるための施設の整備を進めていく

○だれもが地域や社会に参加し、いきいきと暮らせる活動のしやすいまちづくりを進めていく

■ まちづくりの主な取組と成果

1 まちのバリアフリー化の推進

- ◇交通バリアフリー基本構想を策定し、鉄道駅及び駅周辺のバリアフリー化を推進しました。
- ◇歩道のセミフラット化（歩・車道の段差解消）、連続した平坦性の確保や、電線類の地中化などによるバリアフリー歩行空間の整備を進めました。
- ◇開発事業と連携して、坂や高低差のある地域において、バリアフリールート整備などまちのバリアフリー化を推進しました。
- ◇高齢者や障害者、子育て世代をはじめとする区民等のための地域福祉交通「風ぐるま」事業は、車両、ルートや運行ダイヤを見直し、利用者の利便性向上を図っています。
- ◇千代田区福祉のまちづくりに係る共同住宅整備要綱や関連法・条例に基づき、全ての共同住宅についてバリアフリー化を支援しています。

2 保育定員の増加、子育て支援施設の充実

- ◇子育て世代の転入増加を踏まえ、保育定員の増加や子育て支援施設を充実しました。保育需要の増大に対応すべく、緊急的な対応として児童遊園を保育園敷地として活用するとともに、児童館や学童クラブについても整備を進めるなど、子どもたちを育む環境の充実の推進を図りました。

3 高齢者や障害者の生活を支える施設の整備

- ◇区営高齢者住宅及び高齢者向け優良賃貸住宅、特別養護老人ホーム、認知症対応型共同生活介護施設、軽費老人ホーム、有料老人ホームなどの施設を整備しました。
- ◇在宅で暮らす高齢者の生活を総合的に支援する高齢者総合サポートセンター「かがやきプラザ」、知的障害者を対象としたグループホームや、障害者福祉センター、障害者就労支援施設を整備しました。



▼子育て支援施設の整備



出典：ちよだインフォメーション 2017

▶ まちづくりの視点・論点（課題）

障壁のない多様な活動と交流環境のために

◇高齢者、障害者の暮らしやすいまちづくりにむけて

超高齢社会の進展や障害者等多様な人々の社会進出に対応したユニバーサルデザインの都市環境整備

区民の健康づくりや地域包括ケアシステムを支えるまちづくり

◇多様な交流で多彩な力を活かす環境の創出にむけて

安心して子どもを産み育てられ、子どもの健やかな成長を支える施設整備の誘導

多様性を活かし、都心生活の豊かさを育てるコミュニティの醸成

(参考) 関連キーワード

基本的な概念	<input type="checkbox"/> ユニバーサルデザインの都市環境整備 ⇔ ヒューマンセントアドデザイン、ダイバーシティ
若い世代・ファミリーのニーズ	<input type="checkbox"/> 安心して子どもを産み育てることができる環境 <input type="checkbox"/> 子どもの健やかな成長を支える環境（子どもの居場所・遊び場等）
健康とまちづくり	<input type="checkbox"/> 健康づくりを支える環境、気軽に身体を動かすことができる環境 <input type="checkbox"/> 医療・介護を支えるまちづくり
多様性の中での安全確保	<input type="checkbox"/> 災害時の外国人や多くの滞在者の安全確保、避難等

▶ まちづくりの目標

目 標

都心ならではの豊かな価値の創造にむけて、ひと、まち、活動の多様性を活かせるユニバーサルな環境を広げていく

- ① 人生 100 年時代に住み続けられる都心の価値の向上
- ② 人の多様性に対応して、障壁・境目を感じることなく活動できる環境づくりを推進

▶ まちづくりの方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

方針 1

拠点における交通結節機能を充実させていきます

- だれもが安心して、心地よく楽しく歩けるみちづくり

方針 2

都心に滞在するひとが多様なスタイルでつながり、自分らしく、いきいきと活動・活躍できる環境をデザインしていきます

- ★ 人の多様性に対応した都心生活・移動・活動を支えるまちの情報環境の充実
- ★ 多様な活動スタイルにあわせた柔軟な機能・空間・施設とサービス利用環境の充実

方針 3

人生 100 年時代を見据え、家庭や地域で自分らしく暮らし続けられる環境を充実させていきます

方針 4

都心ならではの豊かな環境を活かして、子どもの成長を応援する環境を充実させていきます

- 高齢者や障害者も安心して住み続けられる住宅や豊かに暮らせるような福祉・保健・医療・教育施設の整備・充実
- ★ 都心生活の安心と豊かさを感じることができる地域の施設と公共性の高いサービスの連携・活用（学校・保育、医療・福祉、スポーツ・健康等）

▶ 分野を超えた連携の方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

- | | | | |
|----------|--|---|--|
| 1 | ライフステージに応じて永く、自分らしく住み続けられる住まい方を選択できる住宅・住環境整備 | ⇔ | 分野1
豊かな都心生活を実現する住環境の創出 |
| | ○ 公共住宅、民間住宅のバリアフリー化
★ 保育園等の子育て支援施設や高齢者介護施設の誘導 | | |
| 2 | 子どもが安心して過ごせる居場所の充実
(公共施設、公園・緑地・広場・空地等の公共スペース) | ⇔ | 分野2
オープンスペースがつなぐ良質な空間の創出 |
| | ○ 体験や学習、児童館、公園、児童遊園、緑と水辺などの自然と触れ合える場の整備・充実 | | |
| 3 | 駅・主要な道路・公共施設等における誰もが安全に利用できる環境づくり(車椅子やシニアカー、ベビーカーの利用などを想定したバリアフリー化、わかりやすいサイン整備等) | ⇔ | 分野4
道路・交通体系と快適な移動環境の整備 |
| | ○ だれもが社会に参加し、いきいきと暮らせるよう、活動しやすいまちの創造
(鉄道駅のスロープ、エレベーター、エスカレータ／地上と地下街・地下通路との移動／鉄道車両、ノンステップ・床低バス、リフト付タクシー／歩車道の分離、車椅子の利用を前提とする広幅員の連続した歩道の確保／視覚障害者用ブロック、交通弱者用信号機／公共・公益施設の交通が便利で行きやすい場所への設置、機能的な複合化)
★ 健康寿命の延伸のため健康づくりに配慮した外出しやすく、歩きやすい道路環境の充実 | | |
| 4 | 都心に滞在するひとの多様性を考慮した安全確保
(高齢者、障害者、外国人等) | ⇔ | 分野6
災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり |
| | ★ 都心生活の安心と豊かさを感じることができる地域の施設と公共性の高いサービスの連携・活用
(都心で生活・滞在する人の多様性や大規模災害発生時の活用を想定した運用等) | | |

● 分野 6 ●

災害にしなやかに対応し、回復力の高い 強靱なまちづくり

未来へのまなざし

災害対応力（防災力・対応力・継続性）

千代田区は建物の不燃化が進み、災害危険度は都内で比較すると低いですが、細街路で区分された街区に小規模で老朽化した建物が多いエリアがあることや、高度経済成長期に建設が進んだ都市基盤施設や公共施設が多いこと、河川氾濫時に浸水の危険性が指摘されるエリアがあることなどから、地震や水害による被災リスクを低減する対策を講じていきます。



道路・橋梁、公共施設等の耐震化・長寿命化、更新
建物の耐震化、共同化・更新
都市の骨格的な道路ネットワークの形成

地域では、町会など従来からの防災組織や、防災隣組や帰宅困難者対策地域協力会（町会・事業所）、大学との協定等とともに、都心に滞在する多様なひとのつながりを強めて、災害時にもそれぞれの安全確保と共助の力が発揮できるようなコミュニティの形成を進めていきます。



千代田のまちで柔軟で多様な働き方、活動を展開する
ひととまちをつなぐコミュニティとその防災対応力
80万人を超える昼間人口と
都心に集積する来訪者・滞在者の安全確保

さらに、大規模地震や水害発生時に、都心千代田の魅力・価値の根幹となる機能・活動の継続性を確保するための拠点形成を進め、エリアとしての防災性を高めるとともに、災害発生直後の安全対策（救援・避難・帰宅困難者対策等）、退避から生活環境確保、復旧・復興などのステップが遅滞なく確実に進むよう、事前の備えに万全を期していきます。

▶ 千代田区における防災まちづくりの概況

● これまでのまちづくりで目指してきたこと ●

■ 災害に強く、安心安全に暮らせるまちに

- 一層の耐火性・耐震性の向上等を図り災害に強いまちとしていく
- 災害時に避難や防災活動を円滑に行うための施設やしきみを整える
- 代替となる施設・手段を確保していく
- 迅速な応急対応、適切な復旧・復興を進める

■ まちづくりの主な取組みと成果

1 耐震改修促進計画の策定と耐震化、地域の防災力向上

- ◇耐震改修計画のもと、耐震化等の普及・啓発や耐震診断・耐震改修への助成等、耐震化率向上に努めてきました。
- ◇建築物共同化や都市開発諸制度等の活用により、土地の合理的で健全な高度利用や都市機能の更新とともに、不燃化率の向上や細街路等の解消、狭幅員道路における電線類地中化を進めました。

2 まちづくりを通じた水害対策の推進

- ◇区道等における雨水流出抑制を図るとともに、「千代田区雨水流出抑制施設設置に関する指導要綱」により、民間施設にも設置を誘導し、降雨による水害の軽減、水資源の循環化を推進してきました。
- ◇水防法改正に伴い、浸水想定区域内の地下街や、洪水時に利用者の円滑かつ迅速な避難を確保する必要がある一定の施設を、地域防災計画で指定しました。

3 都市再生特別措置法に基づく都市再生安全確保計画の策定

- ◇大手町・丸の内・有楽町地区では、都市再生特別措置法に基づく都市再生安全確保計画を策定し、地区内の都市防災機能の強化とともに、大規模な地震が発生した場合の滞在者等の安全の確保など、ハードソフト両面で地域の防災対応力の向上を図りました。

4 大規模災害時の地域生活や事業者の事業継続や帰宅困難者等の事前の備え

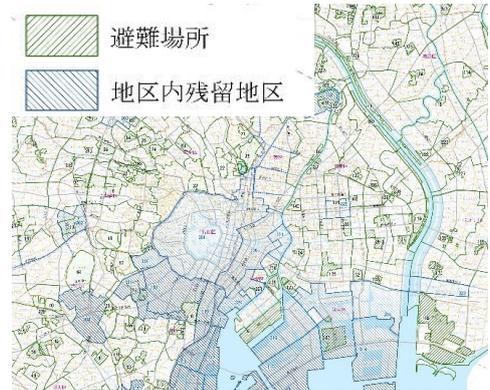
- ◇マンションを核とした地域防災力の向上（マンション防災計画等）や事業者の事業継続計画（BCP）の策定支援を行いました。
- ◇区有施設等において災害対策用物資の備蓄の充実を図るとともに、総合設計制度を活用した民間開発等に際して、帰宅困難者対策の視点も踏まえて防災備蓄倉庫の設置や提供等を要請しました。
- ◇「帰宅困難者対策地域協力会」の設置を推進し、平時は防災訓練等を通じて地域防災力の向上に取り組み、大規模震災発生時には区と連携して支援するほか、民間事業者等と帰宅困難者受入協定を締結し、帰宅困難者の一時的な滞在場所を確保しています。

5 地域防災と被災後の迅速な都市復興のための準備

- ◇地域防災計画において、整理した事前行動計画（時系列の災害対応）、災害時の応急・復旧対策計画を整理したほか、震災復興マニュアルを策定し、被災後の都市復興の手順を整理しました。

▼地区内残留地区

建物の不燃化が進み、大規模な延焼火災による広域的な避難を想定していない地区



出典：避難場所等指定図（第8回指定見直し）／東京都

▶ まちづくりの視点・論点（課題）

災害対応力(防災力・対応力・継続性)のために

◇都心の高度な都市機能の継続性の確保にむけて

高経年マンションや中小老朽業務ビルの耐震化、機能更新の推進と一体のまちづくり
エネルギー等ライフライン面での都市基盤の強靱化等、業務継続性・地域継続性の向上
エリアごとの安全確保対策

◇外国人を含む多様な滞在者の安全確保・適正な避難誘導にむけて

地域特性により異なる人々の滞在状況の相違をふまえた帰宅困難者対策を支援する開発誘導
障害者、高齢者、インバウンド観光客等の災害時要配慮者などひとの多様性を踏まえた防災まちづくり
災害時の公園・緑地・広場等の公共空間や公開空地等のオープンスペースの活かし方
共助体制の強化と連携するエリアマネジメント

◇迅速で的確な災害対応とその事前準備にむけて

きめ細かい被害想定に基づく復興事前準備としてのまちづくり計画の必要性
特定緊急輸送道路沿道の耐震化の推進

(参考) 関連キーワード	
多様性 のなかの 安全確保	<input type="checkbox"/> 地域ごとの人の滞在の状況、帰宅困難者等への対応 <input type="checkbox"/> 災害時の情報発信等（インバウンドの増加等への対応）
都心機能と 都心生活の 継続性	<input type="checkbox"/> 自立分散型エネルギーシステム（エネルギー面の防災力） <input type="checkbox"/> ライフライン等都市基盤の強靱性、バックアップ機能 <input type="checkbox"/> 地域継続性 <input type="checkbox"/> 災害時のタワーマンションでの生活維持対策（L C P） <input type="checkbox"/> 事前復興や業務継続の視点に立った防災・減災
まちの特性と 安全性	<input type="checkbox"/> 高経年マンションの耐震化・機能更新とまちづくり <input type="checkbox"/> 共同化・再開発など、まちづくりを通じた都市機能の更新 <input type="checkbox"/> 想定浸水区域内の地下街等における浸水防止対策
災害時の コミュニティカ	<input type="checkbox"/> 共助のコミュニティ <input type="checkbox"/> 高齢化等に対応した災害対応 <input type="checkbox"/> 産業界との防災コンソーシアム
事前の備え	<input type="checkbox"/> 迅速な大規模震災復興のための事前準備

▶ まちづくりの目標

目 標

大規模災害の発生を前提に、都心に滞在する多くの人の生命、生活を守り、首都機能・都心機能、都心生活の継続性を高め、備えていく

- ① 減災と災害時の生命を守る安全確保、都心生活の継続性確保
- ② 大規模災害時の都心の都市基盤、中枢ネットワークの継続性の確保と活用
- ③ 高度な都心機能の自立性・継続性の確保
- ④ 復興事前準備の確立

▶ まちづくりの方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

方針 1 大規模災害に備えて、耐震性に優れ、強靱で代替性のある多重化されたライフラインを構築していきます

- ★ ライフラインの強靱性、バックアップ機能の確保

方針 2 まちの特性を考慮しながら、高経年の建築物の更新や共同化、耐震性・耐火性の向上を進めていきます

- 震災時に壊れにくい、燃え広がらないまち、水害などに強いまちづくり
- ★ 建物倒壊リスクの高い高経年建築物（マンション等）の機能更新や耐震化

方針 3 震災、浸水被害などの災害のタイプの違いに応じた地下空間のリスクの低減対策、まちなかの避難等を阻害する要因の解消を進めていきます

- ★ 地下ネットワーク等における浸水対策や避難計画の作成

方針 4 大規模災害発生直後の避難等の安全確保対策、都心生活・都心機能・国家中枢機能の継続・早期復旧のための対策を進めていきます

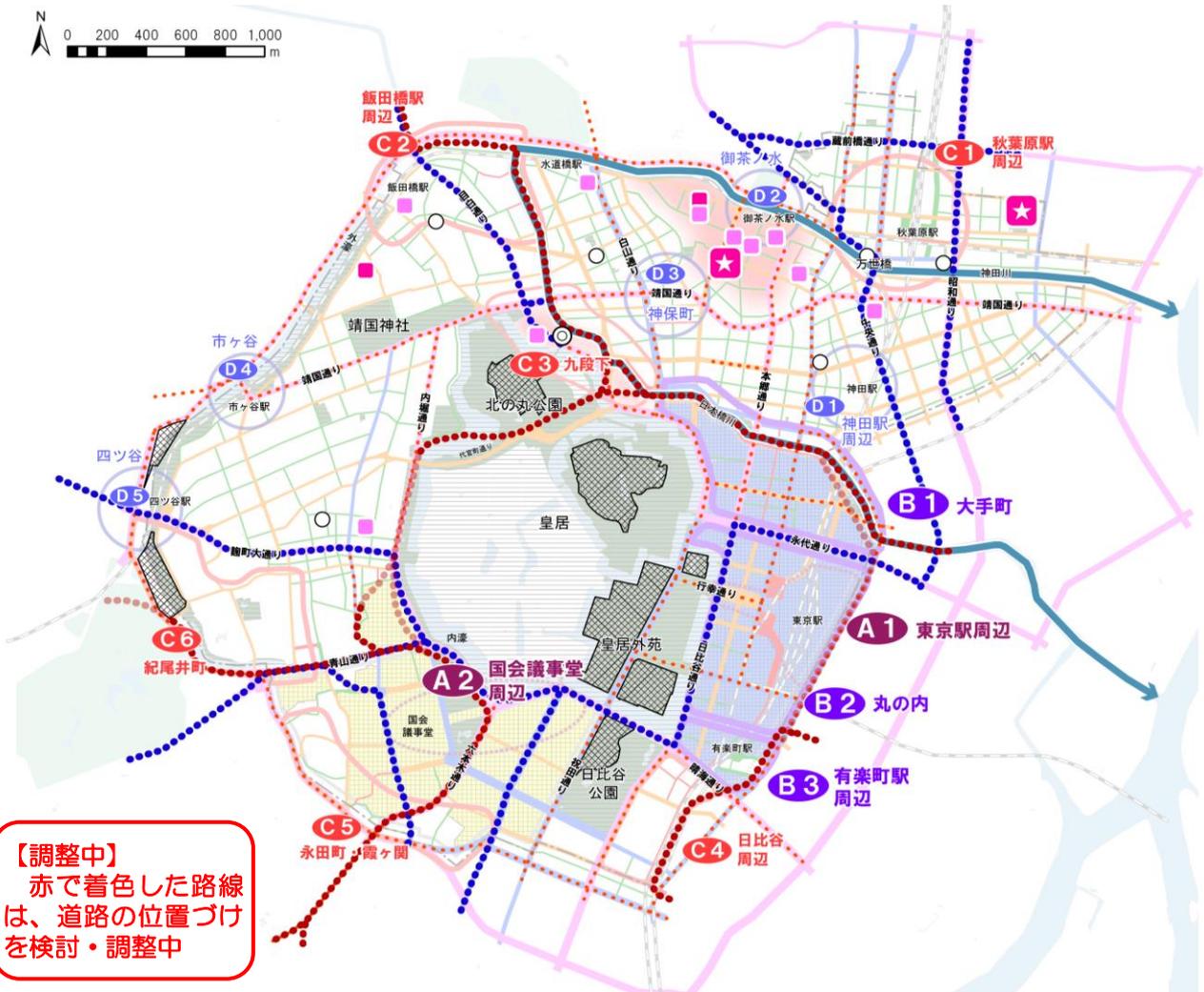
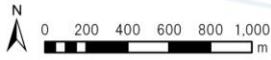
- 災害時の避難、防災活動が円滑に行えるまちづくり
- ★ 高層・超高層の集合住宅等の増加を想定した災害対策
- ★ 都心で生活・滞在するひとの多様性を考慮した災害発生時の的確な安全確保対策と共助体制の強化（住民、子ども・高齢者・障害者等、外国人、来訪者、滞在者・宿泊者等）
- ★ エリアの中核的建築物における機能の継続性・早期復旧の確保
- ★ 災害時にも都市活動の維持・継続が可能な市街地の形成

方針 5 大規模災害からの創造的復興の道筋を事前に想定し、迅速・円滑に対応するための準備体制を整えていきます

- 災害時の代替となる施設・手段の確保、速やかで適切な復旧・復興の推進
- ★ 発災時からのステップに対応した適切な活動のための体制と訓練
- ★ 復興事前準備として、大規模災害のきめ細かな被害想定に基づく地域まちづくりの構想や計画の検討

▶方針図

災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり



	国際ビジネス・文化交流拠点
	高度機能創造・連携拠点
	まちの魅力再生・創造拠点

	主要幹線道路
	幹線道路
	地区内主要道路
	主要区画道路

	都市計画公園・緑地
	河川・濠
	一団地の官公庁施設

	特定緊急輸送道路（高速道路）
	特定緊急輸送道路（高速道路以外）
	一般緊急輸送道路
	河川（日本橋川～神田川）

	区役所
	出張所
	災害拠点病院
	災害拠点連携病院
	災害医療支援病院

	災害時退避場所
	都市再生安全確保計画区域

▶ 分野を超えた連携の方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

1	<p>まち、ひとの多様な関係性のなかで、共に助け合えるコミュニティの力の育成</p> <p>★ (検討中)</p>	⇔	<p>分野 1 豊かな都心生活を実現する住環境の創出</p>
2	<p>大規模災害時の活用を想定した緑・オープンスペース等の機能確保</p> <p>○ 延焼防止にも資する公園・広場などのオープンスペースの確保</p> <p>★ 災害時の活用を前提とした緑地、オープンスペース等の整備と維持管理</p>	⇔	<p>分野 2 オープンスペースがつなぐ良質な空間の創出</p>
3	<p>広域的な避難、救援、物資等輸送ルート確保</p> <p>★ 移動・避難・救援・輸送ルートの確立と機能点検・更新</p> <p>★ 防災船着き場など災害時に機能する水上交通の検討</p>	⇔	<p>分野 4 道路・交通体系と快適な移動環境の整備</p>
4	<p>都心に住み、働き、滞在・活動するひとの多様性に対応した災害時の安全確保（高齢者・外国人等）</p> <p>★ (検討中)</p>	⇔	<p>分野 6 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり</p>
5	<p>都心における大規模災害時の自立的なエネルギーの確保と利用</p> <p>★ 災害時の対応を想定し、地域の特性に応じた自立分散型エネルギーデザインの構築</p>	⇔	<p>分野 7 環境と調和したスマートなまちづくり</p>

● 分野 7 ●

環境と調和したスマートなまちづくり

未来へのまなざし

ひと・モノ・情報をつなぐ次世代のスマートな都市基盤

千代田区の都市構造は、皇居や内濠・外濠、風の通るみち、河川などによって、快適な環境や生き物の生息環境が連続する緑と水のつながりが骨格となっています。夏の地表面温度上昇を抑制するクールアイランドが形成される環境のなかで、環境モデル都市として、低炭素化や環境負荷低減、緑の創出に資する建築・開発、地域冷暖房システム、資源循環などの先駆的取組みで一定の成果をあげてきました。



地球温暖化対策や低炭素都市づくりに資する建築・開発
地域冷暖房システム等のエネルギー・インフラ
ごみの発生抑制・資源効率化
生物多様性

これまでの取組みを継続・発展させて、建物密度の高いまちなかにも緑やうるおい、夏場に涼を感じる空間、環境配慮型の建築・開発を広げていきます。また、都心で高度な土地利用が進み、エネルギー消費の大きい千代田区では、大規模災害発生時の都心の機能や生活の継続性を確保していくことも想定しながら、地域冷暖房システム等のエネルギー基盤の活用拡大とともに、土地利用の状況や未利用・再生可能エネルギーのポテンシャルを見極めて、地域の特性に応じたエネルギー利用のデザインと具体化を進めていきます。



地域冷暖房システム等のエネルギーインフラの利用拡大
未利用・再生可能エネルギーのポテンシャルの可視化と活用
大規模災害時の機能継続を想定したエネルギーの自立分散化

こうしたエネルギー基盤形成を皮切りに、技術革新の段階にあわせて、AI、自動運転等の技術を駆使した都心の移動システムやICTを介して、都心の多様な空間や機能、サービスを柔軟に賢く利用するシステムなど、次世代のスマートな都心の活動と生活を支える社会基盤を形成し、ひととひと、まち、新しい価値を生むコミュニティをつないでいきます。

▶ 千代田区における環境と調和したまちづくりの概況

● これまでのまちづくりで目指してきたこと ●

■ 次世代に継承する、地球環境に配慮したまちに

- 限られた資源を大切にくり返して使う循環型のまちを目指す
- 自動車による大気汚染を抑制し、環境への負荷が少ないまちとしていく
- 地球環境にやさしく次世代に継承できる環境づくりを進める
(鳥や昆虫が棲む自然環境をつくり、人が健やかに暮らせる生活環境を守るなど)

■ まちづくりの主な取組みと成果

1 「地球温暖化対策条例」の制定、「環境モデル都市」に選定、「千代田エコシステム（CES）」の導入

- ◇2020年までに区内のCO₂排出量を1990年比で25%削減することを中期対策目標として定めた「千代田区地球温暖化対策条例」（2008（平成20）年を自治体で初めて施行しました。
- ◇低炭素社会の実現に向けて先導的役割を果たしていく自治体として「環境モデル都市」に選定され、高水準な建物のエネルギー対策、まちづくりの機会と場を活かした面的対策、地域連携を推進してきました。
- ◇区独自の環境マネジメントシステム「千代田エコシステム（CES）」を導入し、環境配慮行動を促進してきました。

2 建築物環境事前協議制度の運用等により低炭素化を推進

- ◇首都東京の中核機能を担う千代田区は、民生業務部門の二酸化炭素排出量が特に多く、事務所ビル等の機能更新の際に低炭素化を加速するため、「千代田区建築物環境計画書制度」を運用し、一定規模以上の建築物の新築・増改築に際して、一次エネルギー消費量の削減を誘導してきました。

3 地域冷暖房供給エリア・面的エネルギー利用の拡大

- ◇大手町・丸の内・有楽町を中心に、開発と連携して、地域冷暖房・コージェネレーションシステム等面的エネルギー利用が進み、省エネルギーや省CO₂に寄与しています。

4 ごみ発生の抑制、資源化率の向上

- ◇ごみの発生抑制や分別収集の徹底、再資源化等により資源循環型都市の形成を推進してきました。

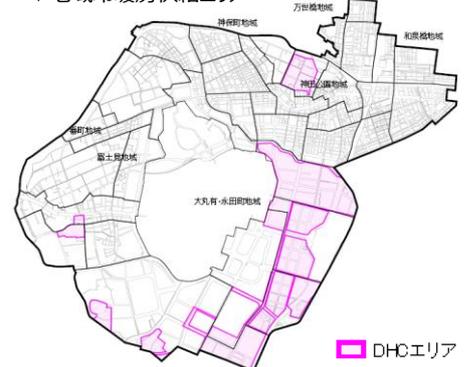
5 いきものや自然、水辺とまちとが共生する空間の創出

- ◇生物多様性、「いきものとのまちの共生に配慮した緑の空間の創出」とともに、皇居や外苑、濠の水・緑と調和した広場整備や水質浄化など、開発事業にあわせて取組を推進してきました。

6 ヒートアイランド対策の推進

- ◇保水性舗装、屋上・壁面緑化、高反射率塗装、遮熱対策等への助成によりヒートアイランド現象の緩和対策を進めてきました。
- ◇開発に伴う公開空地等の連携による風の通り道の創出や、大規模な緑化、街路樹整備が進められたことで、丸の内仲通りなどで表面温度が低下しました。

▼地域冷暖房供給エリア



▶ まちづくりの視点・論点（課題）

ひと・モノ・情報をつなぐスマートな都市基盤のために

◇環境・エネルギー基盤と未利用・再生可能エネルギーの効果的活用に向けて

地域継続性を強化し低炭素社会を推進する、面的エネルギー利用の拡大や、再生可能エネルギー、未利用エネルギーの活用等、地域のポテンシャルに応じた自立分散型の地域エネルギーデザイン

◇世界都心にふさわしい次世代の高質な都市機能・都市基盤・環境性能を持った機能更新に向けて

ESG 投資の動向を取り入れた都市づくり

都心・千代田にふさわしいスマートシティのあり方、イノベーションの創出

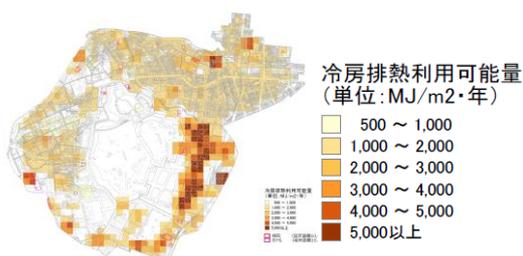
スマートな都心における公園・緑地・広場等の公共空間や公開空地等のオープンスペースのあり方

(参考) 関連キーワード	
環境技術とモデル都市	<input type="checkbox"/> 低炭素化都市づくり（脱炭素） <input type="checkbox"/> 多様なライフスタイルと低炭素化の調和 <input type="checkbox"/> 屋上・壁面緑化＋ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）
共生と生物多様性	<input type="checkbox"/> 自然との共生、生物多様性
居心地のよい空間	<input type="checkbox"/> 夏に涼しい空間（クールスポット） <input type="checkbox"/> 清潔感のあるまち
地域のエネルギー	<input type="checkbox"/> 地域エネルギーデザイン （面的エネルギー、再生可能エネルギーのポテンシャル、熱負荷の特色等の可視化） （エネルギー負荷が高い医療施設等が集積している地域の特性） <input type="checkbox"/> エネルギーの自立分散化推進による地域継続性 <input type="checkbox"/> 地域のエネルギーインフラの活用
次世代の社会システム	<input type="checkbox"/> Society5.0 を実現するプラットフォーム （エネルギーバリューチェーン、スマートフードチェーン、スマート生産システムなど） （G 空間（地理空間情報システム）シティ） ※科学技術イノベーション総合戦略 2017

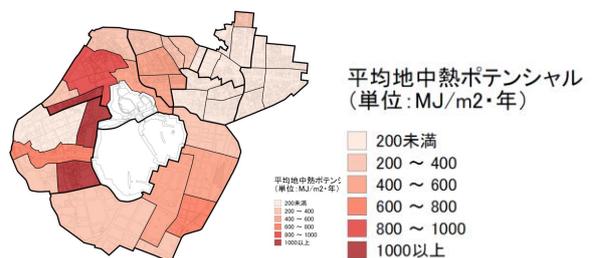
コラム 地域エネルギーデザイン ～都心における未利用・再生可能エネルギーのポテンシャル～

政治やビジネスの中核機能を抱え、活発な開発動向や高度な都市機能が集積によってエネルギー需要が高い千代田区には、下水道やビルの排熱、地中熱、地下鉄の排熱など様々な未利用・再生可能エネルギーのポテンシャルがあるといわれています。今後、より化石燃料に依存しない都心へと進化していくためには、地域特性や未利用・再生エネルギーのポテンシャルに応じたエネルギー利用をまちづくりとともに進めていくことが重要となっています。

冷房排熱（ビル排熱）利用



地中熱利用



▶ まちづくりの目標

目 標

エネルギー利用を起点に、移動、シェア、ひとのつながりへ、次世代のスマートな都心の社会基盤を構築していく

- ① エネルギーの効率的な利用の促進による経済活動と環境配慮の両立
- ② 地域の特性に応じたエネルギーデザインの展開
- ③ 進化する ICT 基盤の上で展開するスマートな都市基盤の形成

▶ まちづくりの方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

方針 1

四季の変化を心地よく感じ、清潔で過ごしやすい都心の環境を守り、育てていきます

- 地球にやさしく鳥や昆虫などが棲める自然環境を回復させるとともに、人が健やかに暮らせるための環境の保全
- ★ 多様な技術導入によるヒートアイランド対策の進化

方針 2

都心の多様な生活と高度な都市活動とエネルギー利用を最適化していく都市のデザインとマネジメントを行っていきます

- ★ 環境負荷の低減と地域環境創造の一体的な誘導
- ★ 地域冷暖房やコジェネレーションシステム等の面的エネルギー利用の拡大
- ★ 未利用・再生可能エネルギーのポテンシャルの可視化
- ★ 地域エネルギーデザインとその具体化のための高効率なエネルギー基盤形成
- ★ ICT 等を活用した地域全体での最適なエネルギー利用のマネジメント

方針 3

都心の資源循環・環境負荷低減のしくみを確立していきます

- 限られた資源を大切に省エネルギー型のまちづくりの展開

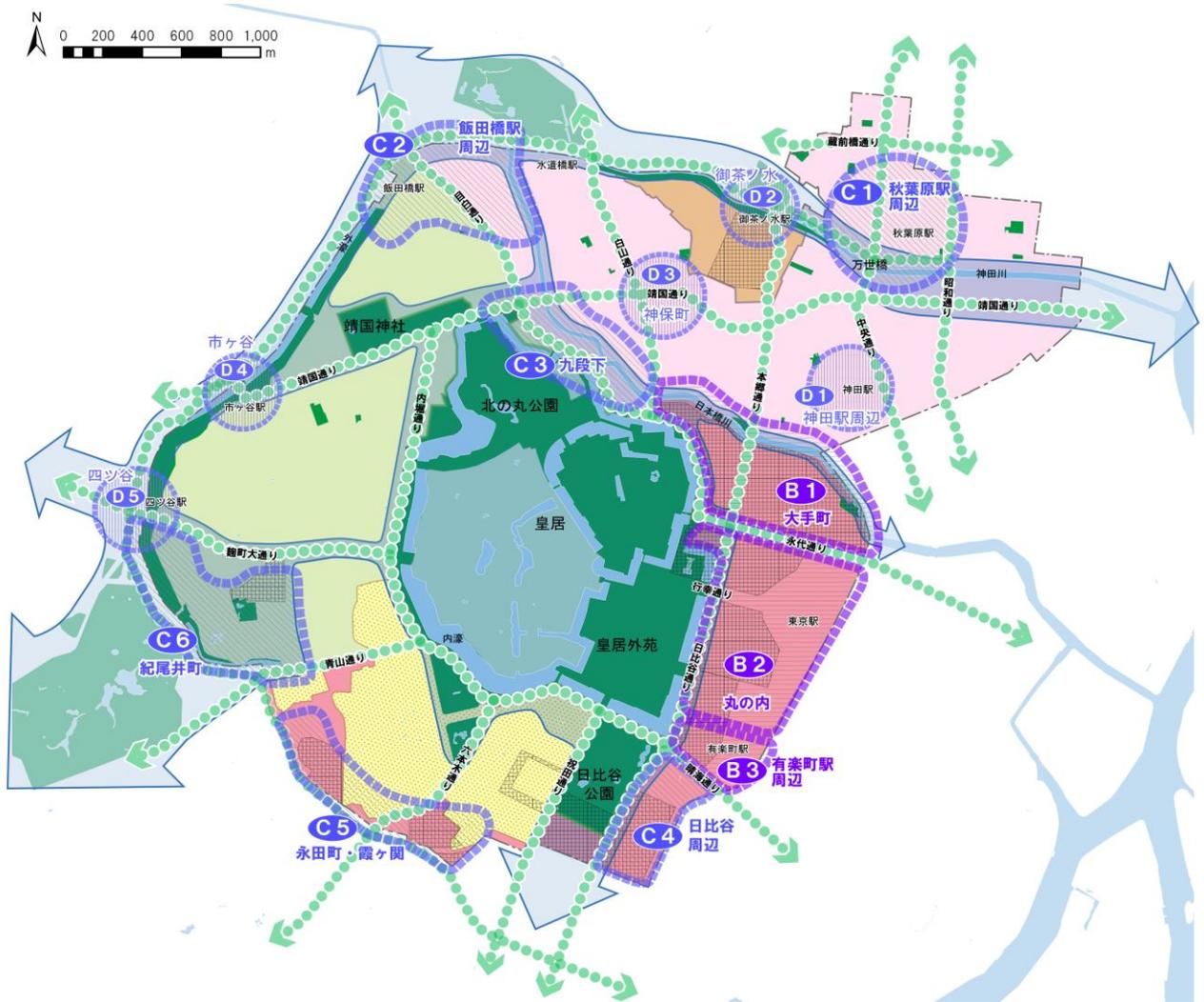
方針 4

都心・千代田にふさわしいスマートな都心形成を目指すビジョンを確立し、具体の目標のもとに戦略を展開していきます

- ★ 都心の高度な都市基盤、多様な都心の空間・資源等の再編・活用、ひと・サービスのマッチング・最適化等に向けたプラットフォームの構築（都心のあらゆるデータ活用・分析、産学公民連携による政策提言、社会実験等）
- ★ ICT 等の技術革新、「Society5.0」の到来を見据えた都心生活の質（QOL）を高める次世代のスマートな都心のビジョンと進化のステップ、目標の確立
- ★ 都心生活及び多様な活動、場所などをマッチングし、都心の価値の最大化と課題解決を最適にマネジメントするための社会基盤、空間・資源の再編・整備
- ★ 技術開発と実装化の社会実験の展開

▶方針図

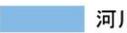
都心の心地よい環境を基盤としたスマートなまちづくり



	環境創造軸
	都市機能連携軸

	国際ビジネス・文化交流拠点 (B 1～3)
	高度機能創造・連携拠点 (C 1～6)
	まちの魅力再生・創造拠点 (D 1～5)

	麹町・番町・富士見エリア
	秋葉原・神田・神保町エリア (医療機関等が集積するエリア)
	都心中枢エリア (一団地の官公庁施設)
	地域冷暖房エリア

	都市計画公園・緑地
	河川・濠

心地よい環境が都心に広がるまちづくり	
環境創造軸	皇居周辺の大規模緑地、内濠、外濠、日本橋川、神田川と、環境に配慮した周辺の建築物、オープンスペースなどの連続的なつながりを強め、心地よい環境を都心に広げていきます。
都市機能連携軸	内堀通り（環状2号線）から放射状に延び、環境創造軸を通過する都市機能連携軸がヒートアイランド現象を緩和する“風の通り道”となって、心地よい環境が周辺に広がるよう、沿道の建築・開発等における積極的な環境配慮・貢献を誘導します。

エリアごとの特性を活かした快適環境の創造	
麹町・番町・富士見エリア	都心の心地よさをもたらす環境創造軸にかこまれ、複合市街地としての落ち着きある街並みや市街地環境を維持する麹町・番町・富士見エリアでは、既存建物の耐震化（長寿命化）やリノベーション、建替え更新など、様々な手法に応じて、オープンスペースや緑の空間の充実、より環境性能の高い建築物や設備への誘導など、環境への一層の配慮が進むよう誘導していきます。
秋葉原・神田・神保町エリア	緑が少なく、夏場の地表面熱分布の高い秋葉原・神田・神保町エリアでは、神田川や日本橋川などの環境創造軸やそれらを東西、南北方向につなぐ都市機能連携軸の緑と連続性の高いオープンスペースや建物配置を誘導していきます。また、街区内においても、心地よさや夏場の“涼”を感じる空間（クールスポット）のつながり、老朽化が進む建物の機能更新やリノベーションによる環境性能の向上などを誘導していきます。
医療機関等が集積するエリア	医療機関等が集積する神田駿河台では、既存の地域冷暖房施設を活かしながら、全体として大規模災害時でも、自立的なエネルギー利用ができるエリア形成を進めています。
都心中枢エリア	皇居や日比谷公園などの大規模緑地や内濠、日本橋川との連続性を意識して計画された街区ごとのオープンスペースや建物配置を活かし、地下空間、地上レベル（建物内のスペース、敷地内の空地、公共空間）、建物上部の空間などをつなげ、より居心地の良く、過ごしやすい空間活用を進めています。
一団地の官公庁施設	永田町・霞が関などの一団の官公庁施設の区域では、国家レベルの中枢機能の集積を持続的に支え続ける ICT、エネルギー利用等の高度な都市基盤を維持していきます。

スマートな都心形成を先導する拠点の育成		
国際ビジネス・文化・交流拠点	ビジネス、観光・文化・交流など世界や地方都市とつながる高度な都市機能が集積する拠点エリアでは、都心の活動や滞在・活動する人の多様性が増していくなかで、実証実験などを重ねながら、ICT と充実した都市基盤、移動環境、自立性の高いエネルギー基盤、防災拠点、道路・空地等をつなぎ、機能・空間・施設等を最適化し、賢く使いこなせるよう進化させていきます。	脱炭素社会を目指して、地域特性、環境創造軸や都市機能連携軸とのつながり、建築・開発等の計画規模などに応じて、環境への適切な配慮・貢献を誘導していきます。
高度機能創造・連携拠点	都市基盤整備や複数の開発等が連続的に進むなかで、相互の空間・機能や鉄道駅との移動環境の連続性を高め、高度な環境性能を有する建築物等の誘導や高効率なエネルギー利用や相互利用、移動環境とそれらをつなぐ ICT 基盤の整備等を進めます。	
まちの魅力再生・創造拠点	エリアの主要な交通結節点として、界隈の魅力を活かすまちづくりや街区再編・機能更新のバランスを保ちながら、環境性能に優れた建築・開発等の誘導し、地上・地下の空間とまちの連続性を強める一方、多様なひとの活動と交通モードを切れ目なくつなぎ、移動性と環境の快適性を高めています。	

▶ 分野を超えた連携の方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

1

皇居を中心とした緑と水辺を骨格とした、都心の心地よい環境とそのつながりの保全・充実

- 自然環境の保全、回復
- 市街地更新時の敷地利用、建物配置の誘導
(風の流れや緑化、水辺環境、崖線の緑等を残す自然地形への配慮)

⇔

分野2

オープンスペースがつなぐ良質な空間の創出

2

将来の自動車利用や技術革新の動向等を見据え、環境負荷を低減する都心の円滑な交通マネジメント

- 駐車場を有効に活用するシステムの整備・情報提供
- 大規模開発に対する交通環境予測評価制度導入を検討
- 低公害車の導入と普及促進
- 自動車排気ガス規制の強化の促進

⇔

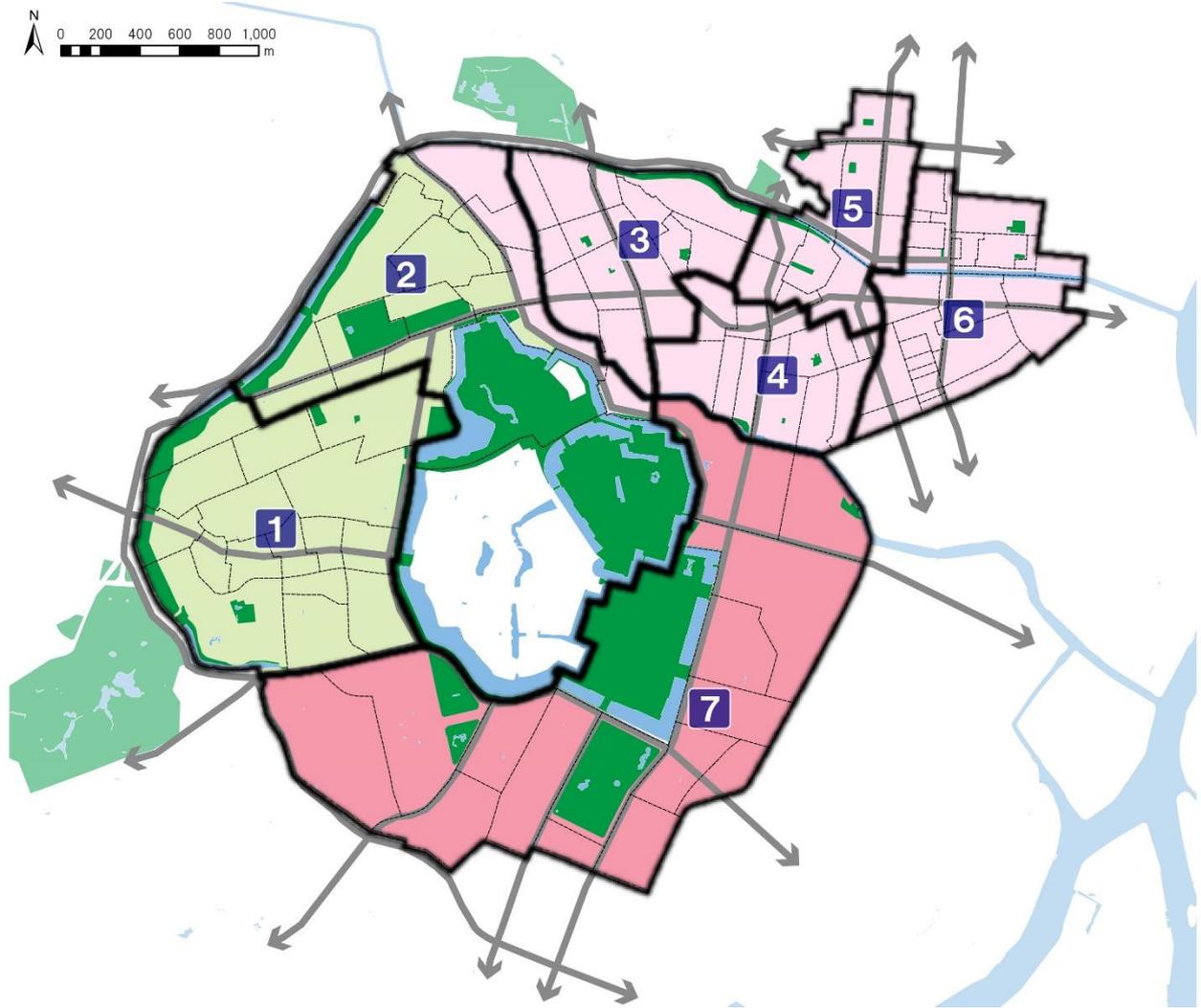
分野4

道路・交通体系と快適な移動環境の整備

地域別まちづくりの目標と方針

1. 番町・麴町地域
2. 飯田橋・富士見地域
3. 神保町地域
4. 神田公園地域
5. 万世橋地域
6. 和泉橋地域
7. 大手町・丸の内・有楽町・永田町地域

▶ 地域区分の設定



麴町・番町
・富士見エリア

- 1 番町・麴町地域
- 2 飯田橋・富士見地域

秋葉原・神田
・神保町エリア

- 3 神保町地域
- 4 神田公園地域
- 5 万世橋地域
- 6 和泉橋地域

都心中枢エリア

- 7 大手町・丸の内・有楽町・永田町地域

エリア・地域区分		町丁目
麴町・番町 ・富士見エリア	番町・麴町地域	隼町、平河町一丁目、二丁目、麴町一丁目～六丁目、紀尾井町、一番町、二番町、三番町、四番町、五番町、六番町
	飯田橋・富士見地域	千代田、北の丸公園、九段南一丁目～四丁目、九段北一丁目～四丁目、富士見一丁目、二丁目、飯田橋一丁目～四丁目、一ツ橋一丁目
秋葉原・神田 ・神保町エリア	神保町地域	一ツ橋二丁目、神田神保町一丁目～三丁目、神田三崎町一丁目～三丁目、西神田一丁目～三丁目、神田猿樂町一丁目、二丁目、神田駿河台一丁目、二丁目
	神田公園地域	神田錦町一丁目～三丁目、神田小川町一丁目～三丁目、神田美土代町、内神田一丁目～三丁目、神田司町二丁目、神田多町二丁目、神田鍛冶町三丁目
	万世橋地域	外神田一丁目～六丁目、神田須田町一丁目、神田淡路町一丁目、二丁目、神田駿河台三丁目、四丁目
	和泉橋地域	神田須田町二丁目、鍛冶町一丁目、二丁目、神田紺屋町、神田北乗物町、神田富山町、神田美倉町、岩本町一丁目～三丁目、神田西福田町、神田東松下町、神田東紺屋町、神田岩本町、東神田一丁目～三丁目、神田和泉町、神田佐久間町一丁目～四丁目、神田平河町、神田松永町、神田花岡町、神田佐久間河岸、神田練塀町、神田相生町
都心中枢 エリア	大手町・丸の内・有楽町・永田町地域	丸の内一丁目～三丁目、大手町一丁目、二丁目、内幸町一丁目、二丁目、有楽町一丁目、二丁目、霞が関一丁目～三丁目、永田町一丁目、二丁目、日比谷公園

● 地域 1 ●

番町・麹町地域

▶ 地域の特徴

概況

- ・一般型地区計画を基本として、落ち着いたある居住地と、内濠～外濠をつなぐ麹町大通りの景観軸に沿った街並みを誘導しており、都心居住の豊かな環境や文化的な環境を保っています。

成り立ち

- ・江戸期には、番町・紀尾井町界隈には、御三家一門や譜代大名、将軍の警護を担う「大番組」が設置されていましたが、麹町界隈は、宿場町から発展し、幕末には、周辺の大名家・旗本屋敷の消費生活を支える山の手最大の町地として賑わいました。
- ・明治期以降は、隼町・紀尾井町界隈は軍用地や皇族家族地へ、番町界隈は明治政府の官僚や政治家の屋敷街へと変化し、外国公館の立地や文化人の居住などにより、文化性の高い地域として確立しました。
- ・戦後は、番町界隈は広い屋敷跡を利用したマンションやオフィス街へ、麹町界隈は多くの商家が廃業してオフィス街へ、隼町・紀尾井町は学校や国立劇場、ホテルなどの大規模施設へと転換しました。

地域の資源

- ◇交通の利便性に恵まれた閑静な住宅地、学校施設、大使館などが立地し、落ち着いたある雰囲気
- ◇まちの記憶を伝える通り、高低差、坂など歴史・趣を感じられる空間
- ◇豊かな緑の骨格とまちなかの身近なくつろぎの空間
- ◇紀尾井町界隈には国際的シティホテルが集積し、歴史・文化・交流機能が集積

▶ まちづくりの動向・課題

まちづくりの動向：

- ◇落ち着いたある街並み・環境に配慮した建替えを誘導（一般型地区計画（一部、街並み誘導型））
 - ◇新たな拠点としての位置付け（市ヶ谷と四ツ谷（新宿区側）が「活力とにぎわいの拠点地区」に設定）
 - ◇日本テレビ通り沿道のまちづくり協議会が発足
-

まちづくりの課題：

- ◇20年間で1.5倍に増加した人口への対応や超高齢化社会の到来への対応
- ◇多様化するライフ・ワークスタイル、ひとの多様性への対応
- ◇番町らしい落ち着いたある居住環境の維持
- ◇分譲マンションの管理適正化の推進・高経年化等に対して耐震化等も含む適切な機能更新の遅れ
- ◇通り・坂の風情や連続した緑を感じる、歩いて楽しい環境の創造やオープンスペースの創出等の身近な緑・空間の不足への対応
- ◇交通結節拠点の強化と駅周辺における都市機能の充実
- ◇長期末着手の都市計画道路とその整備を想定した土地利用計画

▶ まちづくりの方向性

現行マスタープランの将来像	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性
<p>落ち着いたたたずまいの住環境を大切に、住宅と業務空間が共存・調和するまち</p> <p>番町地域は、豊かな歴史・文化的資源、大規模な緑地・オープンスペースを活かして、空間的なゆとりや景観的なうるおいを備えた質の高い住環境を保全・創出するとともに、快適な業務空間を形成し、これらの共存・調和を目指します。また、若者からお年寄りまで、多様な世代にとって魅力のあるまちを目指します。</p>	<p>急速な人口増加や高齢化に対応し、ライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、永く住み続けられるよう建物更新を適切に誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇職住が近接した都心の魅力を感じる居住環境の創出 ◇歴史あるまちの雰囲気、界索性や落ち着きを継承する分譲マンション等の管理適正化・耐震補強、リノベーションを含む建物更新の促進 ◇ライフスタイルを豊かにする都市機能の誘導 ◇エリア回遊軸沿道の文化的資源とゆとりある空間・機能の連続性の確保 ◇外濠・内濠の環境創造軸とまちの緑・街並みがつながる、身近で居心地の良い公共空間・オープンスペース等の創出と活用（防災力向上等） ◇子どもや高齢者をはじめ、多様なひとが永く安心して、歩いて暮らしやすいまちづくり（麹町駅番町出口等） ◇既存コミュニティの継続と地域（住民・企業・学校など）が連携したまちづくり ◇地域特性を考慮した市ヶ谷駅の交通結節拠点機能の強化

改定版マスタープランのまちづくりの方向性（案）

将来像 落ち着いたたたずまいの住環境と都心生活の高質で創造的な魅力が共存・調和し、多様なひとが永く住み続けられるまち

- ◇多様な人々が永く住み続けられ、安全に安心して暮らせる居住環境の創出、維持・保全
- ◇職住が近接した都心の魅力を感じる居住環境の創出
- ◇多様な人々がライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、安心して活動し、交流できる質の高い環境の創出
- ◇豊かな歴史、界索性や落ち着きのある雰囲気を継承
- ◇隣接区を含む地域内・外における回遊性や連続性の向上
- ◇市ヶ谷駅・駅周辺を中心とした都市機能や周辺のまちとの結節機能の充実

周辺区と連携して界索性と回遊の魅力を高めるまち 紀尾井町～赤坂

さらに検討すべき論点（意見聴取、公聴会、意見交換会での区民等のご意見 まとめ）

将来像：

- ◇将来像、まちづくりの方向性の明確化、現行マスタープランの将来像の堅持
- ◇「中層・中高層の住居系の複合市街地」（現行の整備方針）、現行の地区計画を尊重すべき
- ◇住環境の保全を第一に、住宅地として発展すべき
- ◇職住近接と居心地のよい文化資源とゆとりある空間は共存できない
- ◇番町の「閑静な住宅地」「文教地区」と業務空間は調和するのか
- ◇緑が多く、人口が少ない抑制的なまち

まちづくりの方針・整備方針等：

- ◇民間企業の活力を積極的に活用できる環境づくり
- ◇夜間人口を増やし昼間人口は抑制する方向へ誘導すべき
- ◇建物更新・高層化は、地域特性に応じて判断すべき、容積・高さ制限緩和による建物更新は行うべきではない
- ◇二七通り、四番町の街並み、麹町大通りの景観が良くない

● 地域 2 ●

飯田橋・富士見地域

▶ 地域の特徴

概況

- ・外濠・内濠、日本橋川、靖国神社、北の丸公園などの大規模な緑と水辺の空間に囲まれ、文教地区の落ち着きと交通・業務・居住の拠点機能が共存するまちとなっています。

成立ち

- ・江戸期には、牛込門、田安門、小石川門などに囲まれ、旗本屋敷を主とした武家地が広がっていました。飯田町の一部には町地が分布し、武家相手の商売で賑わっていました。
- ・明治維新後、明治政府の官僚や政治家の屋敷街、軍用地や皇族華族地へと変化し、やがて学校や病院等に転換していきました。この間、明治2年には靖国神社が創設、明治27年には、飯田町を始発として八王子まで走る甲武鉄道が開通しました。
- ・戦後、落ち着いた住宅地として発展していきました。

地域の資源

- ◇文教地区内には学校施設や医療施設などが立地した落ち着いたたたずまい
- ◇幹線道路を軸として、商業・業務施設が集積
- ◇九段下には千代田区役所などの区政の中核機能が集積
- ◇外濠～神田川・日本橋川～靖国神社～北の丸公園～内濠の水と緑の連担性

▶ まちづくりの動向・課題

まちづくりの動向：

- ◇都心有数の交通の結節点である飯田橋駅の周辺では、土地区画整理事業や市街地再開発事業等により、多様な機能が集積・調和したバランスのよい環境を創出
 - ◇JR 飯田橋駅のホーム改良、西口駅舎の建替え、駅広場の整備など、交通結節拠点としての強化と地域まちづくりの機運の醸成
 - ◇地域で共有された「まちづくり基本構想」が尊重された開発により、緑や子育て・教育環境等と調和したバランスの良い環境を維持
 - ◇新たな拠点として、市ヶ谷が「活力とにぎわいの拠点地区」に設定
 - ◇公共空間の活用を眼目とした北の丸公園の周辺整備
-

まちづくりの課題：

- ◇多様な都市機能が調和したバランスの良い環境の維持
- ◇多様化するライフ・ワークスタイル、ひとの多様性への対応
- ◇目白通り東側など、集中豪雨や台風等における水害対策
- ◇交通結節拠点のさらなる強化と駅周辺における都市機能の充実（飯田橋駅の路線間の移動経路のバリアフリー化、駅周辺の滞留空間の整備、市ヶ谷駅の交通結節拠点の位置付けへの対応）

▶ まちづくりの方向性

現行マスタープランの将来像	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性
<p>学園や緑の広がり、水辺のやすらぎと商店の活気による、魅力ある生活空間が育まれたまち</p> <p>富士見地域は、学園や病院などが多く、閑静で落ち着いたある住宅と活力のある商店街による、魅力あるまちを目指します。また、外濠、内濠、日本橋川といった水辺空間や靖国神社、北の丸公園等の緑の広がりを活用して、やすらぎのあるまちを目指します。</p>	<p>大規模な緑地と内濠、外濠、日本橋川の連続性を高め、隣接区を含む回遊性と歴史的・文化的界限性を活かせる拠点機能を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇多様な都市機能が集積した高い利便性を保持しつつ、落ち着いたたたずまいを創出 ◇飯田橋・九段下・市ヶ谷の各拠点の連携によるまちのゲート機能の向上 ◇飯田橋駅周辺の連続的な開発にあわせた拠点機能の充実 ◇水と緑の連たん性や教育施設の集積を活かしたライフスタイル・ワークスタイルの実現 ◇地域特性を考慮した市ヶ谷駅の交通結節拠点機能の強化

改定版マスタープランのまちづくりの方向性（案）

将来像 緑と水辺に囲まれ、歴史的・文化的界限性を活かしたライフスタイル・ワークスタイルが実現するまち

- ◇多様な人々がライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、安心して住み、働き、活動し、交流できる質の高い環境の創造
- ◇緑や水辺の連続性を高め、居住と商業・業務機能等が調和した落ち着いたやすらぎのある市街地環境の創出
- ◇隣接区を含む地域内・外における回遊性や連続性の向上
- ◇歴史的界限性や多様な都市機能の集積、高い利便性を活かし、拠点機能や交通結節機能が充実した安全で快適な空間の創出
- ◇駅・駅周辺を中心とした都市機能や周辺のまちとの結節機能の充実した拠点の創出

周辺区と連携して界限性と回遊の魅力を高めるまち

飯田橋～神楽坂

さらに検討すべき論点（意見聴取、公聴会、意見交換会での区民等のご意見 まとめ）

◇

● 地域 3 ●

神保町地域

▶ 地域の特徴

概況

- ・多様な教育施設が集積し、学生のまちとして古書店街が形成されるなど、「知」と「文化」のエネルギーが交わり、多彩なひとが多様なモノ・コトを起こすエネルギーを持ったまちとなっています。

成り立ち

- ・江戸期には、主に大名屋敷や旗本屋敷、幕府関係施設などの武家地が建ち並んでいました。
- ・明治維新後、一ツ橋一帯や近隣の神田公園地域には、大学・各種学校など、多くの教育施設が立地・発祥し、印刷・製本業や古書店などが集積しました。また、劇場や映画館等が設けられ、住商工の混ざり合った活気ある下町型のまちとして発展していきました。関東大震災後の復興区画整理事業によって、靖国通りなどの幹線道路が整備されました。
- ・第2次世界大戦中の空襲を免れた古書店などを中心に、独特の雰囲気をもつまちとして発展を遂げました。

地域の資源

- ◇古書店街、印刷・出版街など、多くの滞在者が来訪する特色ある界隈が形成
- ◇大学・各種学校の発祥の地であり、現在も大学や医療施設が集積、学生街が形成
- ◇靖国通り・白山通りなど東西南北に幹線道路が走り、骨格軸が発達
- ◇お茶の水風致地区などの外濠の豊かな景観や歴史ある錦華公園など、豊かな環境

▶ まちづくりの動向・課題

まちづくりの動向：

- ◇エリアに応じて都市計画手法を活用
 - ・神田駿河台では一般型地区計画、神田神保町や一ツ橋では千代田区型地区計画を適用、
 - ・総合設計制度や市街地再開発事業などにより、街区単位での機能更新を推進
- ◇お茶の水橋の補修補強工事や明大通りの歩道拡幅など御茶ノ水駅周辺の整備の推進
- ◇新たな拠点としての位置付け（御茶ノ水、水道橋、九段下・神保町が「活力とにぎわいの拠点地区」に設定）
- ◇白山通りが都市計画道路の優先整備路線に選定

まちづくりの課題：

- ◇高齢化への対応と多様化するライフ・ワークスタイル、ひとの多様性への対応
- ◇小規模敷地における建物老朽化の進行
- ◇ひと・空間の特色を生かした多様な活動を支える環境の創造
- ◇日本橋川の再生・活用
- ◇白山通り西側など、集中豪雨や台風等における水害対策
- ◇白山通りの整備に伴う街区の見直し

▶ まちづくりの方向性

現行マスタープランの将来像	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性
<p>文化を創造・発信し、多くの人々を引きつける、にぎわいとふれあいにあふれたまち</p> <p>神保町地域では、書店・古書店や学生街など独特のまちの個性を活かしつつ、武道館やスポーツ用品店街などとの回遊性を高め、にぎわいにあふれたまちを目指します。また、出版業・書店の集積を活かし最新の情報を発信するとともに、歴史・文化的たたずまいや下町的コミュニティの感じられるまちを目指します。</p>	<p>特徴ある業態が集積する靖国通りや、内濠と神田川をつなぐ白山通り、日本橋川を軸に、文化と界隈を楽しめるネットワークを拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇古くからの生業でひとを惹きつける個性ある界隈を継承 ◇白山通りを軸にした竹橋駅周辺・神保町駅周辺の機能の連担性や回遊性を向上 ◇街区単位での機能更新などとあわせて、まちとつながりの強い施設・空間を創出 ◇多様なひとがまちの様々な空間を使って多様なモノ・コトを起こしていける環境の充実 ◇さらなる高齢化の進行を見据え、ライフスタイルを豊かにする都市機能の誘導 ◇日本橋川に沿った心地よい空間の連続性や街並みの創出と浸水対策

改定版マスタープランのまちづくりの方向性（案）

<p>将来像 文化を創造・発信し、多くの人々を引きつける、まちの活力やにぎわい、ふれあいにあふれたまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇多様な人々がライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、安心して住み、働き、活動し、交流できる質の高い環境の創造 ◇古くからの生業でひとを惹きつける個性ある界隈性の継承、歴史・文化的たたずまいや下町的コミュニティの感じられる空間の形成 ◇白山通りを軸にした竹橋駅周辺・神保町駅周辺の機能の連担性や回遊性の向上 ◇街区単位での機能更新などとあわせて、まちとつながりの強い施設・空間を創出 ◇多様な人々がまちの様々な空間を使って多様なモノ・コトを起こしていける環境の充実 ◇日本橋川に沿った心地よい空間の連続性や街並みの創出と浸水対策
--

<p>周辺区と連携して界隈性と回遊の魅力を高めるまち</p>	<p>医療機関の集積地（神田川沿い）・神田三崎町～水道橋・後樂園</p>
--------------------------------	--------------------------------------

さらに検討すべき論点（意見聴取、公聴会、意見交換会での区民等のご意見 まとめ）

- ◇都心居住の誘導

● 地域 4 ●

神田公園地域

▶ 地域の特徴

概況

- ・出世不動尊や佐竹稲荷神社などに残っている歴史、神田駅周辺の商店街、スポーツ用品店街の形成など、昔ながらの下町らしさと新しい文化の双方を感じられるまちとなっています。

成り立ち

- ・江戸期には、西半分は大名屋敷や武家屋敷などの武家地、東半分には高密度な町地が広がっていました。
- ・明治期、神田錦町・小川町付近には、多くの教育施設が立地し、学校のまちとなりました。一方、町地は住商混在の活気ある下町型のまちとして発展しました。関東大震災で地域の大部分を消失し、復興区画整理事業により、幹線道路である靖国通りや本郷通りなどが整備され、現代の地域の骨格が形成されました。
- ・戦後、地下鉄網が整備されると、交通の利便性が向上し、大手町をはじめとした業務機能が集積する地域に隣接していることから、区内でも特に業務地化が進行しました。

地域の資源

- ・靖国通り沿いのスポーツ用品店街、神田駅周辺の飲食店街など、多くの人を訪れる特徴的な界隈が形成
- ・内神田を中心に下町らしい路地空間、看板建築、出世不動尊や佐竹稲荷神社など、歴史を感じられる空間
- ・小学校跡地を利用して創出した小川広場、大手町との間を流れる日本橋川
- ・千代田区立スポーツセンターがあり、区のスポーツの拠点

▶ まちづくりの動向・課題

まちづくりの動向：

- ◇千代田区型地区計画のきめ細かな展開や総合設計制度などの活用により、定住人口の回復を目指して住宅床の供給を誘導
- ◇神田錦町界隈、神田警察通りにおける機能更新の推進
- ◇神田警察通り沿道において、社会実験を実施するなど、地域主体による価値創造の取組みが活発化（エリアマネジメントの進展）

まちづくりの課題：

- ◇多様化するライフ・ワークスタイル、ひとの多様性への対応
- ◇小規模敷地や道路率の高さに起因した建物老朽化の進行
- ◇身近な緑・空間の不足、日本橋川の水辺空間の再生
- ◇看板建築の減少、マンション立地や余剰の附置義務駐車場整備による賑わいの連続性の低下など、まちの味わいや奥行きを感じられる神田らしさの希薄化
- ◇神田警察通りを軸とした新たな価値創造活動のさらなる展開
- ◇コミュニティの衰退

▶ まちづくりの方向性

現行マスタープランの将来像	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性
<p>下町の雰囲気を活かし、活力ある新しい文化の感じられるまち</p> <p>神田公園地域は、親水性を高めた日本橋川の水の軸を活かして、人々の憩う、うるおいあふれるまちを目指します。また、スポーツ用品店街や、神田駅周辺の商店街に集まる多様な人々との交流や、出世不動や佐竹稲荷神社などに残っている歴史性をまちの資源として活かし、昔ながらの下町らしさと新しい文化の感じられるまちを目指していきます。</p>	<p>まちの“モノ”“コト”“ひと”を活かし、つなげながら、由緒ある下町のDNAを未来に伝える “神田”らしいまちづくりを展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇神田のまちの文脈のつながりを感じさせる神田駅周辺の機能更新 ◇下町らしいまちの営みを感じられるリノベーションや建替えの促進 ◇小規模地権者が多い地域の建物更新 ◇まちの文脈にそった開発の誘導により、味わいのある界限・空間との調和、連続性・回遊性と賑わいの向上 ◇大手町と秋葉原の中間で存在感を高め、下町の魅力を創出 ◇神田警察通り沿道における連続的な空間・機能の活用による地域価値の向上 ◇身近な緑を感じられる居心地の良い空間などオープンスペースの創出・活用や開発を契機とした水辺空間の再生の実現 ◇地域コミュニティの活性化

改定版マスタープランのまちづくりの方向性（案）

<p>将来像 まちの“モノ”“コト”“ひと”を活かし、つなげながら、由緒ある下町のDNAを未来に伝えるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇多様な人々がライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、安心して住み、働き、活動し、交流できる質の高い環境の創造 ◇歴史性、“神田”らしい下町のDNA、まちの文脈のつながりを感じられる界限性の継承、連続性・回遊性の向上と活気と賑わいの形成 ◇身近な緑を感じられる居心地の良い空間の創出や水辺空間の再生 ◇地域まちづくりの推進 	<p style="text-align: right;">中間のまとめ</p>
---	---

周辺区と連携して界限性と回遊の魅力を高めるまち	神田～日本橋
-------------------------	--------

<p>さらに検討すべき論点（意見聴取、公聴会、意見交換会での区民等のご意見 まとめ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇防災性向上・環境負荷低減・緑被率向上 ◇公共空間整備を積極的に進め、景観資源として活かすまちづくり（神田駅西口） <p>神田小川町：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇住民主体のまちづくりへの行政の支援・積極的な姿勢の提示 <p>神田錦町：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇都心居住の誘導（ファミリー層を増やすために立体的なまちづくり、再開発） ◇神田と大手町の回遊性の向上（人道橋） ◇大規模開発によるまちの活性化 <p>神田駅西口：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇効率的な土地利用を促す街区再編により、緑化空間とオープンスペースを創出し、防災性能の向上と歩いて楽しいまちづくり

● 地域 5 ●

万世橋地域

概況

- ・世界有数の電気街・観光地として発展を遂げ、サブカルチャーなど多様な文化の発信地や情報技術産業拠点として発展した秋葉原を中心に多様な価値ある場所が連担するまちとなっています。

成り立ち

- ・江戸期、筋違門付近は、日本橋を基点とする中山道と江戸城から上野寛永寺に将軍が参詣する御成道が交わり、多くの人が行き交う場所でした。江戸中期以降、神田川を中心に舟運の拠点となり、材木や薪炭などが流通、神田多町には青果市場が設けられ、江戸の商業都市として大きく発展しました。
- ・明治期は市電や鉄道の開通により、舟運から陸運へと変化しました。明治45年には、筋違門のあった場所に甲武鉄道万世橋駅が開業、神田須田町界隈は、東京一の盛り場として栄えました。昭和18年に万世橋駅が廃止、青果市場は神田多町から秋葉原に移転しました。関東大震災後の復興区画整理事業により、靖国通りなどが整備され、現代の地域の骨格が形成されました。
- ・戦後、神田小川町～神田須田町周辺において、電気製品のヤミ市が成立し、世界でも類を見ない現代の秋葉原電気街へと発展していきました。

地域の資源

- ・神田明神や神田祭り、ニコライ堂や古くから続く老舗などの歴史的資源
- ・御茶ノ水界隈の文教地区には、大学や医療施設が集積
- ・世界有数の電気街・観光地として発展してきた秋葉原界隈は、サブカルチャーなど多様な文化を発信、情報技術産業等新産業の拠点
- ・旧練成中学校を活用したアーツ千代田 3331 では、多様で柔軟な創造的活動が展開
- ・歴史的遺構の顕在化、水辺と一体となり、往時の活気を呼び起こす空間を形成 (mA Ach ecute)

▶ まちづくりの動向・課題

まちづくりの動向：

- ◇秋葉原駅周辺の大規模未利用地の土地利用転換、環境に配慮した建物・空間の創出など、都市再生の進展
- ◇御茶ノ水駅の駅舎改修による交通結節拠点の強化、回遊性の向上（御茶ノ水ソラシティ～ワテラス）
- ◇エリアマネジメントの進展
- ◇神田川沿いの親水空間を活用した賑わいの創出 (mA Ach ecute 神田万世橋)
- ◇公共施設の建替えにあわせた神田川兩岸の一体的なまちづくりの推進
- ◇神田駿河台の大学校舎の建替えにあわせたまちづくりの推進

まちづくりの課題：

- ◇秋葉原を起点とした、神田公園地域や隣接区との連担・連携の強化
- ◇外神田や靖国通り沿いの小規模敷地における建物老朽化の進行と賑わいの継承
- ◇多様な歴史的資源・文化が融合した新たな魅力の創造
- ◇増加する外国人観光客など、多様な滞在者への災害対応等の安全確保
- ◇身近な緑や清潔感のある空間の不足

▶ まちづくりの方向性

現行マスタープランの将来像	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性
<p>下町風情と最先端が調和する 活気に満ちたまち</p> <p>万世橋地域は、神田明神、老舗の商店等の下町的・伝統的な雰囲気や駿河台の落ち着きある雰囲気を大切にすると共に、電気街の最先端的な産業集積によるヒト・モノ・情報の拠点を育むまちを目指します。また、人々が憩える回遊空間の形成を進め、多くの人でにぎわうまちを目指します。</p>	<p>秋葉原を起点として、 淡路町、神田駿河台へとつながり、 広がる拠点域・文化創造圏のネットワークを形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇秋葉原の拠点と万世橋周辺、淡路町の連坦性が高まる魅力づくり ◇国際観光拠点としての安全・安心・アメニティの向上 ◇大手町・神田から外神田、湯島、上野・御徒町へとつづく回遊軸の形成 ◇歴史的資源や祭りとともに、多様な文化や情報、ものづくり・アート、コミュニティが互いに作用しあって魅力を創造し、発信する場・機能の充実 ◇J R 御茶ノ水駅の駅舎改修や大学等の神田駿河台の機能更新を契機とした魅力ある連続的な空間・街並みのネットワークの形成

改定版マスタープランのまちづくりの方向性（案）

将来像 歴史的資源や多様な文化・情報、ものづくり・アート、コミュニティの相互作用により、 魅力を創造し発信し続けるまち

- ◇多様な人々がライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、安心して住み、働き、活動し、交流できる質の高い環境の創造
- ◇秋葉原の拠点と万世橋周辺、淡路町の連坦性による魅力の向上
- ◇国際観光拠点としての安全・安心・アメニティの向上
- ◇大手町・神田から外神田、湯島、上野・御徒町へとつづく回遊軸の形成
- ◇歴史的資源や祭りとともに、多様な文化や情報、ものづくり・アート、コミュニティが互いに作用しあって魅力を創造し、発信する場・機能の充実
- ◇神田駿河台の機能更新を契機とした魅力ある連続的な空間・街並みのネットワークの形成

周辺区と連携して界域性と回遊の魅力を高めるまち

外神田・お茶の水駅周辺～御徒町・上野・湯島

さらに検討すべき論点（意見聴取、公聴会、意見交換会での区民等のご意見 まとめ）

- ◇都心居住の誘導
- ◇神田地区における「大学の機能更新を誘導する」政策は削除すべき、妥当な事業であるか検証すべき
- ◇居住者の視点

秋葉原周辺（ご意見では「広域秋葉原」と記載）：

- ◇地域の人々の憩いの場・新しい文化を発信する場として、神田川沿岸の整備・再開発
- ◇秋葉原の歴史性・特性を活かし・伸ばすまちづくり
 - ・“秋葉原”のイメージを継承するリノベーションの促進（地区デザインコードの策定）
 - ・江戸時代に“辻”として栄え、地域文化を育んできた特徴を強化し、歩行者とクルマが共存し、歩きながら体験できる場を創出
 - ・独自の文化の創造・振興、様々なチャレンジが可能な特区としての認定

● 地域 6 ●

和泉橋地域

概況

- ・かつての、問屋街の面影は失われつつありますが、年に二回「岩本町・東神田ファミリーバザール」が開催されるなど繊維街としての面影を残しています。コミュニティのつながりとエネルギー、なりわいの息づいたまちとして、下町的な良さが保たれています。

成り立ち

- ・江戸期は、日本橋地域と隣接していることも影響し、商人や職人の長屋が連なり、神田川沿いには、舟運を利用した流通関連の業種が多く立地していました。
- ・明治維新後も、金物ををはじめ、東京の流通で重要な立場を維持し、現代の金物通りの原型ともなりました。関東大震災後の復興区画整理事業により、幹線道路である靖国通りや昭和通りなどが整備され、現代の地域の骨格が形成されました。昭和の初めには、秋葉原旅客駅が設置されて交通の拠点となりました。
- ・戦後、繊維・金物・薬品など独特の問屋が集積し、住商の混在する町として発展していきました。

地域の資源

- ◇下町らしさのある界隈、看板建築など歴史を感じられる空間
- ◇産学連携機能・集客機能・情報発信機能などが集積し、新産業拠点を形成
- ◇年に二回開催され、多くの人々が来訪する 30 年以上続く「岩本街・東神田ファミリーバザール」
- ◇リニューアルされた芝生広場のある和泉公園
- ◇地域の中央を東西に流れる神田川

▶ まちづくりの動向・課題

まちづくりの動向：

- ◇千代田区型地区計画のきめ細やかな展開や総合設計制度などの活用により、定住人口の回復を目指して住宅床の供給を誘導
- ◇岩本町・神田では、町会の協力により若手アーティストで構成される団体によるエリアリノベーションのプロジェクトにより、かつての問屋街にあった建物の再生が進展
- ◇鍛冶町の廃校となった中学校の校舎を活用した緊急待機児童対策の実施
- ◇防災船着き場・観光の拠点としても活用される和泉橋船着き場の整備により、神田川の親水性が向上
- ◇神田川沿いの個別建替えが連続し、水辺を感じられる空間が増加

まちづくりの課題：

- ◇昭和通り、靖国通りといった幹線道路により、都市機能や賑わいが分断
- ◇ファミリー層を中心とする人口増加への対応
- ◇かつての生業の集積度の低下
- ◇小規模敷地や道路率の高さに起因した建物老朽化が進行
- ◇神田川の再生・活用
- ◇建物の規格の変遷に対応しきれない地区計画の見直し

▶ まちづくりの方向性

現行マスタープランの将来像	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性
<p>地域に根ざした新たな産業を育む、活気と人情豊かなまち</p> <p>和泉橋地域は、都心の利便性を活かし、新たな産業構造への転換を進め、都心居住が促進された活気と人情豊かなまちを目指します。また、親水性を高めた神田川の水の軸や道路空間などを活かして、人々が気軽にふれあえるような、人情あふれる空間づくりを進めます。</p>	<p>日本橋や大手町、秋葉原への近接性、まちの成立ちやつながり、文化性、神田川の水辺を活かし、新しい下町の居住の魅力を創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇神田のまちの文脈のつながりを感じさせる神田駅周辺の機能更新 ◇下町の居住、問屋街としての成り立ちのなかで息づく商売、アートやものづくりなどがつながり、都心生活が豊かになる場の創出（まちの味わいを感じるリノベーション） ◇神田川の水辺を活かして、ゆとりある居心地の良い空間の創出 ◇居住人口の急速な回復に対応した魅力形成（都心生活を楽しむ休日・平日、夜間の魅力創造） ◇働き方の多様性に応じた魅力ある居住スタイルの創造 ◇まちの文脈に沿った開発の誘導により、味わいのある界限・空間との調和、連続性・回遊性の向上

改定版マスタープランのまちづくりの方向性（案）

将来像 地域に根ざした新たな産業を育み、新しい下町の居住の魅力を創出するまち

- ◇多様な人々がライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、安心して住み、働き、活動し、交流できる質の高い環境の創造（都心生活を楽しむ休日・平日、夜間の魅力創造）
- ◇下町の居住、問屋街としての成り立ちのなかで息づく商売、アートやものづくりなどがつながり、都心生活が豊かになる場の創出（まちの味わいを感じるリノベーション）
- ◇まちの文脈に沿った開発の誘導により、味わいのある界限・空間との調和、連続性・回遊性の向上
- ◇まちの文脈のつながりを感じられる界限性の継承、連続性・回遊性の向上と活気と賑わいの形成
- ◇まちの味わいを感じられるリノベーション
- ◇神田川の水辺を活かしたゆとりある居心地の良い空間の創出

周辺区と連携して界限性と回遊の魅力を高めるまち

岩本町・東神田～馬喰町

さらに検討すべき論点（意見聴取、公聴会、意見交換会での区民等のご意見 まとめ）

- ◇ホテルの誘導
- ◇周辺区と連携して界限性と回遊の魅力を高めるまちに「神田～日本橋」を追加

● 地域 7 ●

大手町・丸の内・有楽町・永田町地域

概況

- ・大手町・丸の内界隈にはオフィス街、有楽町界隈には繁華街が発展し、永田町・霞が関界隈には国家中枢機能が集中し、歴史と風格ある街並みが形成されています。

成立ち

- ・江戸城正門である大手門前や大名小路には老中・若年寄など幕閣を担う譜代大名らの屋敷や幕府諸機関が所在、丸の内・日比谷・霞が関界隈には有力外様大名の上屋敷が分布し、江戸の中枢を担いました。
- ・明治維新後、大手町・丸の内・霞が関界隈には政府の諸機関が、丸の内・日比谷界隈には軍用地が置かれました。その後、官庁集中計画により、司法省・大審院・海軍省の煉瓦庁舎が完成、明治 36 年には日比谷練兵場跡地が日比谷公園として開園しました。丸の内の軍用地は民間に払い下げられ、明治 27 年の三菱一号館が竣工後、「一丁倫敦」と呼ばれるビジネス街となりました。
- ・大正 3 年には東京駅が開業、行幸通り一帯に鉄筋コンクリート造のオフィスビルが竣工、「一丁紐育」と称される米国風の街並みが出現しました。高度経済成長期以降になると、業務機能の集積が急速に進展するとともに、中央官庁地区の整備が進みました。

地域の資源

- ・東京駅、法務省赤レンガ棟、国会議事堂など歴史と風格ある街並みが形成されています。
- ・行幸通り、丸の内仲通りなど魅力的で個性的な道路空間が存在しています。
- ・「地区計画」と両輪となる、官民連携で定めた「まちづくりガイドライン」が尊重された都市再生の様々な活用が進み、大規模なオフィスビルの更新、高度で多様な都市機能・空間が充実しています。
- ・日枝神社の大祭・山王祭は、江戸期以来のまちのエネルギーを象徴し、現代へと継承されています。
- ・日比谷公園は、都心のオアシスとして愛されています。

▶ まちづくりの動向・課題

まちづくりの動向：

- ◇歴史的な街並みの保存による都心の風格の継承と顕在化、商業・文化など多様な都市機能の誘導や緑・空地の確保により、新たな価値・交流を生む空間として再生・活用が進展
- ◇常盤橋における大規模開発のさらなる進展
- ◇日比谷公園ランドデザインとその周辺による地域資源の魅力向上に向けた取組み
- ◇国家戦略特区制度を活用した道路空間の魅力創造、広場の活動運営などのエリアマネジメントの進展
- ◇大手町、丸の内仲通り、大手町～六本木ヒルズなどでの新技術を取り入れた社会実験の実施

まちづくりの課題：

- ◇多くの昼間人口、外国人観光客数の大幅な増加により、ひとの多様性に配慮した大規模災害対策
- ◇歴史と風格ある街並みの保存・継承
- ◇緑・水辺空間の一体性の確保や魅力ある環境の創造
- ◇ひと・空間の多様性を生かした居心地の良い場づくり
- ◇多様な滞在者の多様な活動を支える移手段の高度化
- ◇隣接区との連たん・連携の強化

▶ まちづくりの方向性

現行マスタープランの将来像	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性
<p>風格ある環境共生空間に、国際的に開かれた豊かな都市活動が育まれるまち</p> <p>本地域は、世界都市東京の中心にふさわしく、歴史の積み重ねによる風格ある質の高い街並みを形成し、また、鳥や昆虫の棲む水と緑にあふれた環境共生空間を創出します。さらに、多様な人々に開かれ、質的転換の図られた高次な業務機能と国際的な商業・文化・交流・情報機能をあわせもつ複合的な都市機能を備え、災害に強く、豊かな都市活動や世界的交流が営まれるまちを目指します。</p>	<p>豊かで活発な都市活動やグローバルな交流が営まれる経済・社会・環境・文化が調和した持続可能性の高い都心を形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇大規模災害の発生を想定し、政治・行政・司法の国家中枢機能とともに、高度で国際的なビジネス交流の拠点としての機能の継続性や滞在者等の安全を確保 ◇首都東京の都心としての歴史の積み重ねがつくる風格を活かし、新しい都心デザインのなかで継承 ◇皇居外苑・内濠・日比谷公園等との一体性・連続性の高い空間や都心の眺望を楽しめる空間を創出 ◇都市再生を通じて創出された機能やストックされた空間の多様性と“場の力”を活かし、ネットワーク化を推進 ◇空港アクセスなど、都心への広域的なゲートとしての機能・利便性の向上 ◇日比谷・内幸町等から、新橋・汐留や虎ノ門、八重洲側、六本木等との連坦性・機能連携の強化 ◇東京都市計画の広域的な役割の中で、Society5.0等次世代を見据えた機能更新を展望 ◇文化・芸術機能の強化（MICE等）

改定版マスタープランのまちづくりの方向性（案）

<p>将来像 豊かで活発な都市活動やグローバルな交流が営まれる経済・社会・環境・文化が調和した持続可能性の高い都心 中間のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇多くの昼間人口、外国人観光客、ひとの多様性に配慮した大規模災害対策 ◇政治・行政・司法の国家の中枢機能、高度で国際的なビジネス交流の拠点としての機能の継続性の確保 ◇首都東京の都心としての歴史の積み重ねがつくる風格を活かし、新しい都心デザインのなかで継承 ◇皇居外苑・内濠・日比谷公園等との一体性・連続性の高い空間や都心の眺望を楽しめる空間を創出 ◇都市再生を通じて創出された機能やストックされた空間の多様性と“場の力”を活かし、ネットワーク化を推進 ◇空港アクセスなど、都心への広域的なゲートとしての機能・利便性の向上 ◇日比谷・内幸町等から、新橋・汐留や虎ノ門、八重洲側、六本木等との連坦性・機能連携の強化 ◇東京都市計画の広域的な役割の中で、Society5.0等次世代を見据えた機能更新 ◇文化・芸術機能の強化（MICE等）
--

<p>周辺区と連携して界限性と回遊の魅力を高めるまち</p>	<p>有楽町・日比谷～虎ノ門・新橋・汐留・銀座 ～永田町～六本木 大手町・丸の内～八重洲・日本橋</p>
--------------------------------	--

さらに検討すべき論点（意見聴取、公聴会、意見交換会での区民等のご意見 まとめ）

- ◇都心居住の誘導
- ◇「イノベーションが創出され、成長し、発信するエリア」としての記述を追加

都市マネジメントの方針

1. 都心の力を創造的に活かす協働のまちづくり
2. 地域まちづくりの推進
3. 継続的なまちづくりの改善・進化

1

都心の力を創造的に活かす協働のまちづくり

この方針で描いた将来像（ビジョン）は、千代田区で生活・滞在し、活動するたくさんの、そして多様なひと、事業者、組織・団体等が、それぞれの力を活かして創意工夫を重ね、つながりを強めて、具体的なまちづくりを展開して実現していくものです。

千代田区には、多くのひと、モノ、空間、情報が集まり、交わり、都心の様々な魅力や価値、活動と相互に作用しあって、交流と創造の大きな力が生まれています。

多様なある都心のまちづくりを推進していくためには、既存の地域コミュニティはもとより、区民、企業等、在勤者、エリアマネジメント組織、大学等教育・研究機関、在学者、NPO・ボランティア団体等多様な主体との連携・協働・合意形成を図ることが必要です。また、千代田区のまちづくりは周辺区や東京都、そして国にも大きな影響を及ぼすことからこうした関係行政機関との調整・合意形成も重要になっています。

各主体がそれぞれの役割や責任を十分に理解し、まちづくりに取り組むことが大切です。



出典：NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会 (Ligare) HP、淡路エリアマネジメント

これからのまちづくりでは、まち・ひと・地域の力と千代田区などの行政が相互に連携し、新しい魅力・価値を共に創り（共創）、育て、未来に伝えていくために、みんなの力を結集し、大きな成果をあげられるようマネジメントしていくことを重視して、その体制や人材育成、環境整備を進めていきます。

〔地域まちづくりの推進〕

都市計画マスタープランは、千代田区のまちづくりの基本的な方針を示すものです。これを地域で具現化し個別の都市計画や都市づくり施策に展開するためには、地域特性に応じた目標や方針を地域が共有する必要があります。

地域のまちづくりの機運はもとより、地域の課題、まちの動向、社会経済環境の変化を的確に踏まえて、地域におけるまちづくりの構想の検討や策定を積極的に支援していきます。

〔都市とエリアのマネジメント〕

千代田区には多様な人々の交流と創造の大きな力が生まれています。これからのまちづくりにおいては、都心に集まり活動するひとの力と多様性を効果的に活かせるよう、既に活躍しているひとから新たに千代田区のみちと関わりを持ちはじめたひとまで、幅広く人材を発掘・育成しながら、仲間づくりや活動のスタートアップを効果的に応援していかなければなりません。都市を「つくる」だけでなく、「使う」「育てる」ことを念頭におき、こうして育て、広げた力を最大限に活かして、千代田区ならではの多様な価値を次世代に継承し、発展させていけるよう、適切なマネジメントを行っていくことが必要です。

公共空間等の多種多様な場の力を活かし、育てる力。

交流の場から新しい価値観やスタイルを発信し、仲間を増やしていく力。

社会実験などを通じて先端的な発想や技術を具現化していける力。

まちづくりの情報やノウハウ、人材といった豊富な「知」の蓄積を活かす力。

こうした力を結集して、歴史を継承し最先端を歩む千代田区ならではのエリアマネジメントの実現を目指します。開発事業が契機となるエリアマネジメントはもとより、既成市街地におけるエリアマネジメントの可能性についても検討していきます。

〔まちづくりとマネジメントのプラットフォーム〕

千代田区内の各地におけるまちづくり協議会の設立、まちづくり構想の立案、開発協議、エリアマネジメントなどの実績を踏まえて、地域の多様な主体が連携し、それぞれの力を発揮して、まちのポテンシャルを活かした魅力・価値創造を持続的に進め、発展させていける仕組みを確立していきます。

(例)

- 個性ある界隈の魅力・文化を活かし、発展させていく「まちの将来ビジョン」と都市機能・空間のデザイン
- 将来ビジョンに沿って、まちの価値を維持し、高める建築・開発の誘導
- 地域資源や空間活用の創意工夫と収益活動の展開、さらなる魅力創造・課題解決の好循環の創出
- まちづくりの活動・事業の評価と改善 など

3

継続的なまちづくりの改善・進化

〔まちづくりの基本調査「都市づくり白書」〕

都市計画基礎調査とともに、都市の多様な空間や流動、ストック・資源の情報、統計情報、地図情報など、都市や地域の状況や変化を把握できる情報・データを定期的に調査し、それを公開し多様な主体がまちづくりについて議論できる都市づくりの情報のプラットフォームを構築します。

例えば 5 年ごとの都市計画基礎調査が実施されるタイミング等にあわせて、その時点の成果・課題（都市づくり白書）をまとめ、その先の都市づくりや取組みの成果や、改善・進化に向けた論点・課題を整理していきます。

〔マスタープランの改定〕

年度単位の予算編成、千代田区都市づくり白書と連携した 5 年単位の施策・事業改善、機動的で柔軟な見直しへの対応、10～20 年単位の計画改定など、施策・事業～政策の評価・改善のレベルに応じて、区政の根幹となる戦略（基本構想・基本計画等）と連動させながら、都市づくりの取組みを改善し、進化させるため「都市計画マスタープラン」は必要に応じて柔軟に見直します。

〔“次世代の都心・千代田の進化”を目指す区全体のスマートなマネジメント〕

次世代の ICT 環境が高度に充実していくなかで、ビックデータや AI などの革新的技術を使いこなして、都心に住み、働き、滞在・活動する多様なひとの動きをリアルに分析し、様々な地域課題の解決や都心生活の質（QOL）を高める都心のサービスの進化に対応して、都心の充実した都市基盤、高度な都市機能、空間等の再編・再配分や資源活用の効率化・最適化を進めていく都市マネジメントの体制を確立していきます。

次世代の都心の価値を高める都市マネジメントの進化のイメージ

